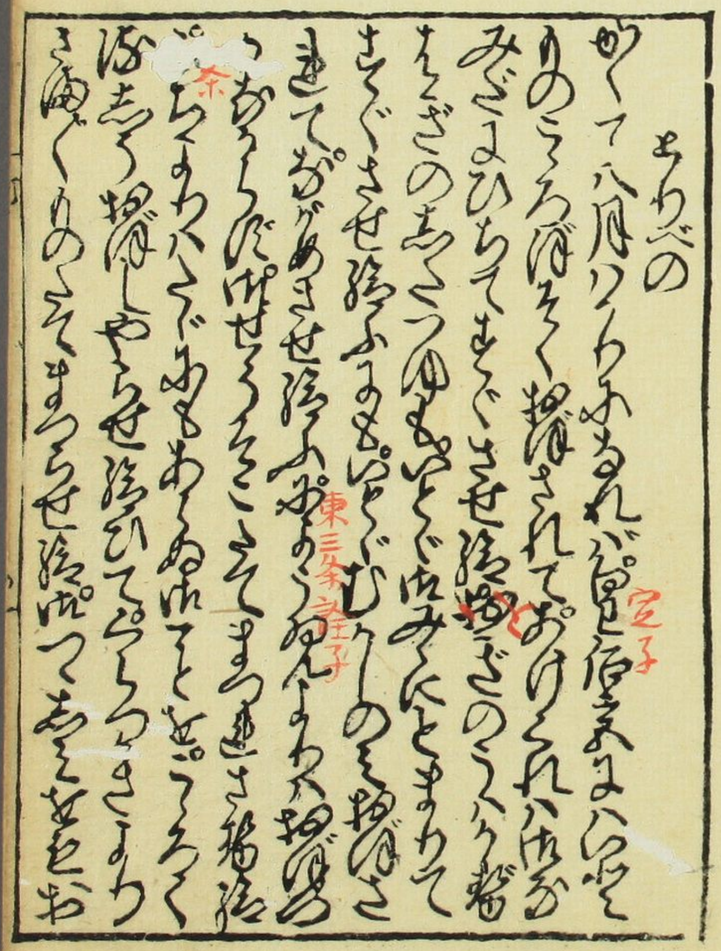
栄花物語　とりべ野

大川屯

四

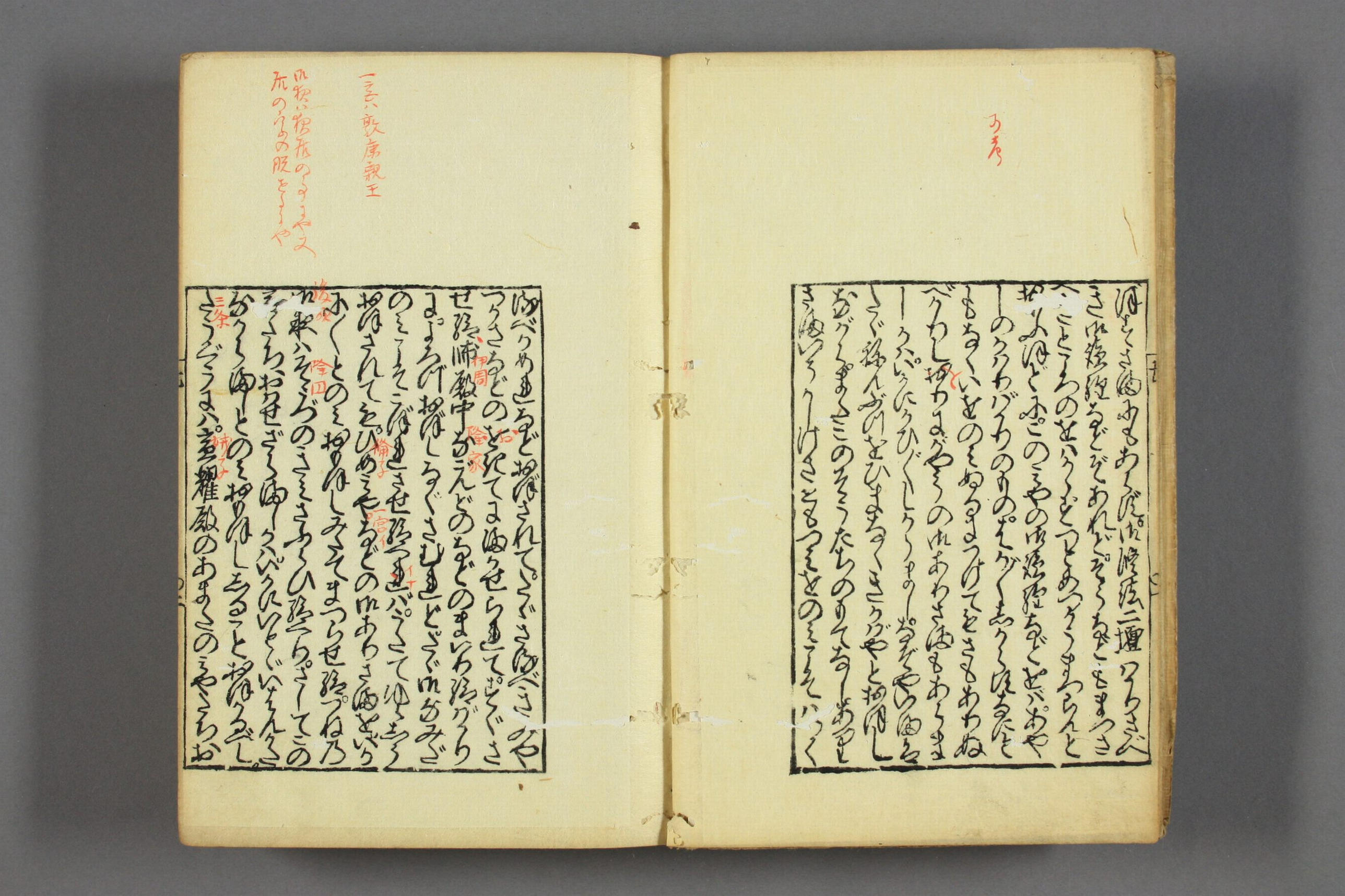
長徳二年

詮子八田殿后一条母后
法興院兼家公女



内閣文庫

内閣文庫



一言ハ敦康親王

四条ハ雅房のゝ子ゝ
元のゝ子の院をゝ

ゆてmかうひいとうげうるまーけ
うれば洋菓子屋舎まいろ絵とくてーぷうちまこ
つたハあせりのまんじのまつわるどうちづき。
いゆめーまきれぞれようけてもむーひまれ
ぬさづれさんぐらるどまいろつぷようづく
るどりのぐわしつぷあせりのふくのあわさゆる
どぷひくくるびつけてもぷ洋菓子級云ちどいぐ
あひてぜうりくのうるたくるどみるまうて。
おうーうゆうわるけうひをるどもてぐ
くーぷぐえてぷミくーはまてでつねよゆい
ぷうるハこの月はあうら世界ぷぷうちるる

まうーう塩されて清服法格つねまいつまれ
熱そぐひるぐけうる世界ておれるることのを
塩くわぷさべうるさ山調査ちどぷ師教こい
そぐ世界ゆぷうちうりそまいうちんるど
あまどぷてゆるもまうをてわるべきおらねだぷ
そぐ世界ぷぷあうばくみるうさぬども世界てい
ざうくーしちてーだくれくれるちひちど
よせ世界ぷうつぷのおれるるとぐるもとのを
くれつのさ世界ぷ師教そのまくのれさうしゆ
まバぷりしよとうおとらぬれあうさゆをこるひ。

おんなごいのこのことをのこしたまふ
中おんどのもさとふいでさせたまひくての
ミさふひ殿敦康ゝもひめ嗚子ゝもぱあわさ
よのをんなうてうおりまたぱごとも
おりしちぐさまて紙れいのちともどこそ
ちう殿ゝねぱやのれあわさ海八ちくゝわてさ
あうでハあうべさちぐぱしとわうるはは
けてもぱこおさものふうづたさええさせ
殿ぱんとうれさみえさせぱぱ殿ぱは
十二月よちわぬぱ殿之ものれちちもまうぱは
されてぱやくくとまちぱさるこぱ人

四年十五

ぱこちうつこ中世殿ぱべされとうれみさんこ
もぱぱくくとちもまうぱこのぐうみさ
てまうち世殿ぱぱぐうぱおりまたさ
海べさちう合濃殿ちどひまうぱやむでと
ちぱこうあるうるどめあれあそのし
ぱあひうちぱりのきちどとうぐ海ういん
ぱどぱぱ保二年十二月十五日のうたちあぬ
一金
ニちあるきこうめてきれぱたくくとあ高
ぱうひまうさうちちぱ海ぱどみこむまれ殿
ちぱどんちぱおりまたとうちれきれどさえ
きたりうたぱおりまたぱ海さるこちうくれ

ひてゐまへのちのれてとよるわぬぬぬをつき
さ兄ぬよるべまゆはは出遠遠とわらでき在孫ぐひれ
ゆるをまいちるるぬさこうわいくるるうふ
ま。あくねばみるくおそ海どふをくうれこと
ふをふるりどふやをひさまくうるわぬれぬぬ沈
いるくくはるつくれ山とおぶちちくくるてこ
くて博殿久海をみくてまつわぬがよるれ
ぬをくさちわ孫へばやぐひくえ在孫よをわぬあおいく
海つわ孫へばやぐひくえ在孫よをわぬあおいく
ト。とまどふりどふぬそくくちさ海ふひちをれ
海孫をくさわみてうちふるをあるいどぐぬうを

つさのくふまどぬるれのうひりれくてやすせ孫海
まバ博どのハいぐれくてまちち在孫てふをわ
ーまだるれ孫ぐるべさるれどぐさのくひて
ゆくをくくるくゆどバいぐれくをれちくさるえさ
せてぐれ孫ゆをくくくてまつわつぴどわりのどいをこ
くわばくをくをとれりはーめくくわつるれをー
くくもぬくれとみくくてまつわつまどぬをくくま
せバ孫りひくくうえんくせくちわつるいのちるぐれ
うれくくれくくてあわをれくていくでれとるれま
いわくるえくとのくゆ海どのも海どのもるれ
孫ふぬあくるくるどみおくをくくれくくる

長徳三年

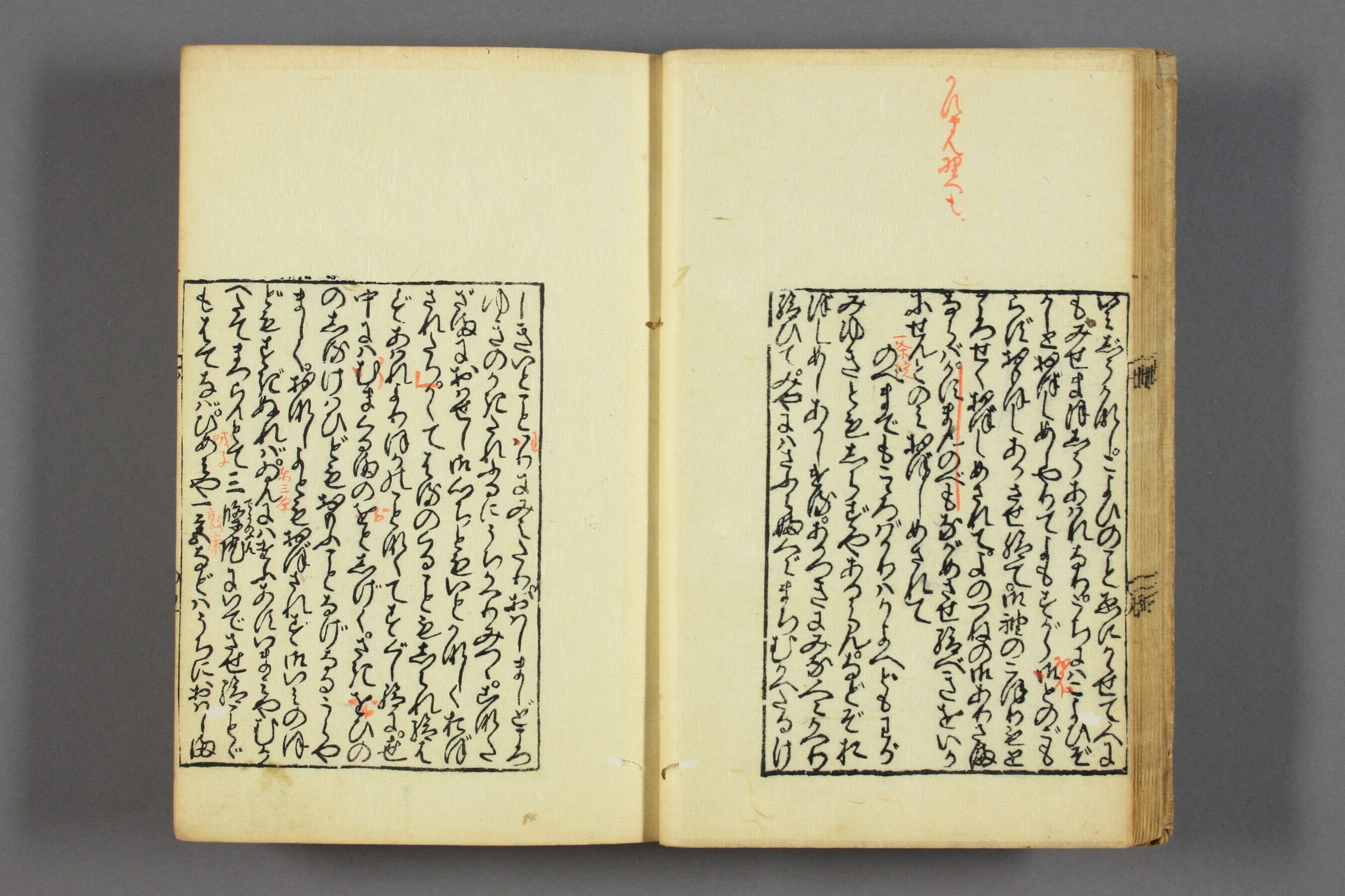
そうそく 紫式部

きこえさしろほどもいとゞうつくしうあれてわらへ
中ごろのはくるさふもいとさらせぬるのばらせぬ
へとあれどさこうめいれてちんもとぐさせぬを
ぬぬやはれてちゝひをせさせぬて三丁のひも
よむをびつのそせぬとぬぬぞ帰れ
くるぐくちどもわてみぬてこのさびハクさるもれ
ふびそそのくちとぐさやうるどうせぬこうぬ
みぞうあれちるれてちゝひとものうちにちわ
のはらんぐさこうめいやうれどやせぬぐ
ぬあやとぞみゆる
よもをぐくちぐわしことをつきれをを

こひんかみぎのいろぞゆゝしさよ
ちるかすちるはまれどいまはとそこ
ろばそくをいろだこれく那よ
をあわとものもちるものもちぬ為ちわとも
ちさむのつゆとそれとちぐあよるとあそれ
ちるとくをぬぬくうせぬこのはことのも
うふてハまへのさかうあそハあそせぬし
めをぬかあわとそ帰どのいろぐせぬとわべ
のくみあそのくそに二町ぐわさわて こ海やせ
ふものとつそわてつひひちるどつさそぬそれ
しまさせんとせさせぬぬぬをとをこわせた

れよそほひさたかりしまさはことぐりのぞ
くらうらぶてよあうぶ撥しまさてさせたうら
のうぶてとともみやくのうたもも撥しうぬ
れあわうぬどりいとおううれうみうてまう
ぶうこくうとうぶようもまさたまうぶそのの
よんうわぬまぶぶこぐのつうれいとけのううぬよ
ておうまさせたう師教うわうぐめううぶさと
のぐうみかつくうまうらせたううごうひうをゆ
さいうぶうおううておうまうぶさやをみれふ
つとうぶうさうぶおうまうつさてうううせたて
ううのれうれうらひぬぶさとくうせさせたうぐて

れうろぬとうたおうろさせたてぶれかぐうやし
まさいまよハまうぶたうよとのぐうあさ
のぶみうのふうどうようぐもいうおうるたま
どうぬわうしをゆうさうとうたよおうーどうぬ
みうぶるうぬればうどの
れもみかうさうのうぶべうさ為うね
どゆうさうくまあるううぶうれうきゆうえ
ううゆうさのううひのべハあうとうえて
いづくとうとううううとうぶれん為郷君
ぬうさうとまゆうきもくうらぐうさうとうれ
ぬうのべみてやうてううんうんやどのぬう



させんと拵しかれども師とのるどハたりうきと
くみてまりゐるすぎきれバそれをぞうら
めをこうぞうしく拵しめられをぶおのう
のんよハの九日してうるやむしへてまうら
せゐそちどの中かどんどのるどぜをうにと
拵しめせどぬぐこのうちるるうらみるよ
ろ所いぬくちうつまうう拵さるゐぬぐよ。
ぬむしへよそう三位さうべさあうづうろぶし。
のんのてんどうへあまてれむしへよまうま
ぶづうさせゐぞうけてもうやぐさよハあ
それようあきことつさび拵ぐらるべしぞ

さてまうゐへまばかんまうひへみてまうら
せゐまうにひまれさせゐてぶよ日ふるゐ
ゐうまどううまにゐりひさこうきせゐへ
うもうぶうもぐりのゐりけぬあうさ海を
あれなあうぬりふハさうにうれ。うや
よハゐ法すのうしうぐせゐするそちどの古
かみざひまるす。一えひあうやさへうちにゐり
まさバいもぐちるうぐさむうちうんうとをたを
ひゐうべしぐてて驚ようねのるひしのうえハぬ
三冬
うぐうへゐうゐうゐうあうぐくてうさが
やうのうもの昭中れたねものびてゐのひゐよとい

詮子

尚侍綏子長保六二七薨卅一

なとききこえてみやまうれさえ給へりしは
どたかきせ給めかやさしきにおはしまさ
うしめでたきわさくらの御ありさませさせ給へ
給てこの御かたかたさ
御かたしどもこのみふでつくさせてかれ
てくしのもなかにいとなかりしかどもその給け
御かたかでこ御ものかたけるのこえの
いゑにおりしまたはなどともあやまは世給ふで
はまのちあまこの御かたのの心へとおきなき
さなりのうちてまろうれてうちのるのなるべき
ますでふにおかとあなてもでりせきつくさ給

給中ぐれさとかはそでこそ世給なとまこそいとは
まつりのさかしなのかんなものきしまてう御
しるけるせ給そこの御料のまうしあるま給
御のなあるのあやゝるべきなやとてろしき
世給ひどこうそ世給べきうしやおもんやうしじ
どもやしせべさへとしろとあしせて給へかお
いしのうそのもみ給しつゝみどとぞよほう
うとやせうさら世給ありのことあれはさう
ぬ人だいどもうでうえてあれはいかたくと
みそまつわ御ぞほどりさやでひさまうお
やこ給てぞこたら世給ひのぞはしくうあさ

ましう物ひとけぬことよされもうれしうかれ（倫子）
ばしめしぜよめでたれ〳〵とおほとのゝう
へのれそくゆゝうのれさま（中君）みちつなゝそれは（道綱 兼家の男）
もとうそまうと給ひまぞすわくでみもおく
ぞおりきれバこのごろさべさはどにあきらむ
給ひわをあそ一でゝどのかおしう御べしやかた
まうらせ給べう物んやとものやきれバよろこ
とておらうにあたりしあざわとい人のよろ御
やざわふまうらせ給てむりまれ給まうわおの
うてふそりの給ハばかれしう物ぞほどふや（兼経母 雅信女中君）
ぐでのられはつとゝすてうせ給ぬ物うへのうち

（左大臣雅信室穆子）

そくるなはあかれはおぼし入られどのもあは
まことゝろをさきことにおぼしおきてさせ給
あなたにも上のけもとめてのおとこみそおま
たおほしもとくのみぞこれはひとつれかう
うへそすゞろげぞそぐてみこえさせ給ふ（左大臣）
又このおほとのゝ御ことをもとのえりうんに（内裏 倫子）
いそぎ給ひふあへなく思ひてことにおぼし
あげさせ給ふおほとのをおぼえこのあはれにさ
ばりのみてれさうらひなどのとめでたう
このごろこのれゆうわたよの物ゑもこ
よおもうつるざゆぐよおぼしたげるこ

そわるまみくさわぶ　ゑのこのちごさくを
つとひぐたてぶのうわと　ぶしあひふまもや
ぐそそのはつをのはてと　ぶとみぐぶはを
のうたちあぶのうことぐのたいうぐのぐれて
ひさみちまあみくさ　ぶを初んぐそまちらんと
ぶりのとと。ぶしぬどぶぐてとくちう
そそまちわてはいくこのはどもあれまぶはさ
はぐこのさくこのはあひひみぐぶーまぶはう
ことえあべうめるはめのとはまもくとのぐむ
人あまくあまぐぶなんのくことていやしかうぬ
こうへちどまやひぐどちはりのあてはくまうれ

ぶしくわしくばそのはこちのうまれぐこれは
りたひうちくそあくぶるぐばこれとひつ
をみるちをみるものはせはれうひぐくもい
とはとれぐくてやぐそそのくくまちばは
ちうあひひくくくまぶはのくうへぶをくさ
ぬまぶれくわはくてくくはあうあんの
はぐ十突ぶやけくぬませはぶばまれ
ばはうくそのはぬなどもせくせはまるる
とぶーめちはぐどはのはちのまいか
らぐわしくばそまくまうくうわて七月あとぶ
しくぐあを為はをかまはあんもまくくハ海せく

せたまふんとて。ぷんをたまるにまろび塚い
そぐせたる七月ゆき塚しめきれどぜ中も
のさづ(又)ぐう塚きれてどぐさせたるまてのの
九月もいつやゆまうでられバうろぐさーあ
ひのさづ(又)ぐく塚きれてぷーやゆまうでの
のらあやきれるやとさぐあぐてぷろうやゆ日
まてうてうつりまてぷひぐう
せたるれ塚んどのさゆぐるつりまれる。
ぷてうるれうてありひさこえ
させたぷゆてまるまるうてういうーと塚りひさこ
えさせたるてぷらまてまてまらせたるまぐ。

脱文
○ぷーやゆまうでられうをぷまるまてまらせたる大本

脱文
○ぷイ院しいと塚しりぷまるまてまらせたる本本

うらもいをうらうるうるれる塚りひさこえさ
せたるてぷぐれ。たるさらせたるバぷうひさこ
えさせたるひてるるせたるぷどもぐどうらうう
塚りひさこえさせたるてぷ。おんのいゆさにて
ゆんをあぐをさせたるバてぷうとゆるうとくや
させたるバてあうやうぐるぷまぐる塚ぐ
ーめれるくゆぐれうぐまぐどやーさせたる
まにぷあみぐどのうるせたるぷてまぐてさせ
たるて九月ハいやゆまうでとてぷのうぐう
うらあまくさいうぐのくうゆぷおんのいまハゆ
とりのれーのりぐびぷーやゆのうんたうう

がくぎやうのちからにてこそぜんごんのみちもおやし
うんぜそくのことおぼさるゝことはりぞその
ほとけをきゝをみそこねまうそうくごにてゆ
ゆゑにまでおりひらけくべしおほいでさせんて
あくごうちせんやみのほどもこれやまさとりの
ころばそくさこゆかよろげおかれはおぼしめ
されて

千雜中
あまりにたひゆきおふさうれせんにけは
ゐなはてざうのうけぞかしきどのことにあらば
れうゐまよふひとぞなせんどのこゝろ
さとりてゆきおやすさうのもろしあはて

らとせのうけをせらるゝとあるらんとぞやことさら
てまいらする世にてかまはんにてせけんまでも
まうけあかれはおぼしめされてぞてまはゝ
るれ一人におまつれんかぎりのさびぞうしと
おぼされていまざうれうおぼしめされ
いのちはまれいのうちをおもふるとあるそで
けざいやうぜんのあるよとて身をぞさもこ
おかせることけはあかれるさびのれいのかを
せゝせんへかれてこのそうどりあるゝ海ぎき
ことはいたおぼえさせんよりとおやとぢら
さうせとるとてるかれにてまいらせそのた

びいのちのうざわとおりひこうちうざーこうこや
づうひのうざわうちうわとそおやそうりのおこちら
やーのうこうびーこちうまのこうちうどもぞうど
りふ別當まうもうもうじめてうびとうてて
ゆうづうづうもうづうせうはぬりぐ「ぞうこう」
せうせうはてみてうこの射うどくいこうせうはて
須賀うどこうこうとにせうせうはうみすんぞう
ぬりどせうせうはて海うでうせうはとてもいうこう
うこうせうはうこうぬんぐもいとうぬりうみて
まうるぬてうこのうこうとこれ万殿をいのうこう
てまうるいでうせうはてはうどぬりくれ八幡もうぬ

東三条院平賀事
長保三年十月九日丙午有
此事有行幸

うせうはうどうべてとうこうのれ八幡よりはうとうぐれう
はうはうどうこうこうぬうべしぬうどうこうこのせのうら
のうせのれうとうめでうこうはうこうまうるぬうこうぬを
ぬうしいうこうせうはれうぐうこうさあうこうぬうこうこて
うこれうこうバいこうこうれうぬうぬうこうまでうあうどのも
うのうぬうきみうこうまうらせうはてうこうぬうのうぬ海
ぬ海てうこうくのれいのうせうこうせうはうぐうて十月うな
ぬ海うあうづうらみうぐうどのうてうせうこうせうはうぐうこう
うこうどうあうはうをいうこうぐうこうあうぐうこうれ年風方
うどうどうこうどうどうこうまうまうぬうぬうまうどう
ぬうもうぐうのうこうとはうこうれぬパ月十又歌うぬうと

こんなりのぐわしてはまどのりとる弁さ
ゆるぎんのもけさで（資）（た）
あまのうらやどーちく八みこねたをみ
うよせるあだんよの月ぐーもゆところ
よ為隆（隆イ）
ひくやゆめのうたゆきたにだのりとをゆよ
ひまあていのゆきみぐーろびよるどあひし（えイ）
まひいゆのこのこんぐだちろぐーとやうく
もつるゆどにとのくあをやさとこーはぐーろハ
みてまひ給うまるぐまつとのくはもこのいもぐ恵公（高）（ね）（鬼河太大作頼た）
納蘇利舞給ぐ（倫イ）えのはもこのこれ君

さいで

陵

ぐ給ぐ玉舞給ぐとのくあわさゆめもこゆ
くにはりわしぐやまのりみぐろびをはうなろ
まゆのまりるゆれゆうこのいろとみまびく
まるゆ弁をゆくのこたうもたあとりこさゆ
ゆあどさゆくのいろのさらあたるさびで
るどをつろうもうまみゆるぐよためぐた（つやイ）
さらけのうまゆはーいろくさゆぐーのりぐち
のあきうろてこびのけざやたみてぐーぐを
ぐうあでこれいろくのみさのおろうろ
こたらでるあるのぐくさこたぐーろさむく
はりわしまべてこちもさうねばえたもつぐ

をどりのことをつくさせたりぢゃ
みのうちはおりまして
一ゆせばこんもひんぐのみるこ
一まれどのこんへハひんぐのこんはおりまし
てんこちらへちどハはてのようさ
よだぶてんどやこんへちどハあげうちよつさこち
みんのみのようぐこんでんのみるこのこと
どのようさふしぬみとのこうれどいこうめぐ
こうことでそこうこうぐやうぐうこらせたば
どちらのうんこちらへのろくでんどやこんへのろ
けりのちどみかちつくさせたりぢゃかんの

日もしらかくこれぬ通ばかりかとくどもこと
みんハ三源院よりの日でこらせたぐの
ゆ笑ちどハいぐあわをんこれらをめでこうぶ
うぐうどの六十の笑おんのさい いのみを
さこうえさせてとたせたりぢゃとくハあう
ぐりとさとでぐされをるこのさんでものれ
うこうさとこれもくかみぐとぐめぐみてま
つる大へくはうちぢゃこうさよハよせりをばるも
のゆて神ゆさどもこのうべきればやうてこ行
ふうこへまいりせたりぢゃこうけりとぐぐさ
まてこうこのとりさせたりぢゃこうやハみ

おくそこにてうかりませばとくとくこれを
うてあそびをせばへばんりあまさうえんさをせばば
りのごとくにつめでおぼやちくりのこうばそ
くばえまんまばいうべのさおとのくわを
ひばるるぴまハいのらもわうもばえくべら
神ぐるぴあわさ海のいかとこうゆうばる
えさをばこそあめとにまづまちどきこ
えさをばこてぴうかをばばうへもせばあ
へぐくばさんれてさやうあもおりまさこべを
よハいうぐらのさとをもばんとらえわりふば
るを蘭虎ハみそまうわらまだちどそだわ

しらあまごわさあうそだわしはどか
ばうべそぴくていまうでもまだまれまへの
れあわさ海をばばうまうでりとゆま
まうまをばへばるまくだいかのことにハかも
まべちじおやまくまひまるれうろばそう
まだかちわとだうわさうえんさをばてぴうをめを
りてあそだくうそまうらをばぴへハれこうよい
とりのうだうまうばしあさ海まばやだそ中
ぐうのれうこれまうまばうまをばよわ
こうろこばりあのうをれせらるれあわさ海かひ
あわまてぴばはあれてこうのどくれれりのだ

ゑちぜせさせておんのれくるんまいりた
まつまとばとんばそきんの給ぜつ給社をも
りの物をつくるわそでぬまべるどとりの
あれよの給をれどもろづそづーうつ海
ふくばさるれどおんよはとのくおまへのこのと
やのれことをむくーらうろとたきこえは
けくそすつらせ給へまばたいくの物まべふくを
こくろさうだしてばさるべしおれちるることを
もはーこさことをもろばよこさこえはそう也
給てこれよハとくのばら也給へおもをめされて
ものいこよそこちぬはるまとと

てまこちせ給ぬこのほどをみそまつるよ
さーうめでこれおくひちぬはごりまに
ちわてめんハでさせ給うへつるわもいこ
うはーきこえさせ給てよくぬまでおそ
ーませばそやはさらせ給祈歌ありまこち
ぬぬでくこちとちこえさせ給へばとも
きくまてくへらせ給ぬまべらでさせ給ぬ
も月よちろぬまべくこわざちどちげさ
こちあてせ中もいとさづーえそこたも
てゆーこちすまもちわぬれバはやけはさ
くーはるぬせのいろだあてどちはづいて

ゐるこころぱ〳〵ぱなはどにあるうめんりのせさ猫
ぱてゐるやまーうぱばしめーうちぱのれこころ
をぱとりてぱばしめーぬどらせぱどれ
くぱばしめーもふひごろよるればどれいち
ふいくぱ遊ばみとこころばそうぱばさるぷう
らみもまいるこねさぬよぱりねしの猫ハ
せーりのとぱいくぐぱりーまさんとぱりねしめた
よろぱやぐそぱりりのるぐまれらんどれさ猫ハ
どぱよろべよぱばーもあろうるとぱめのと
こいもいくぐとみそまるぱゆぐうるれ
ゐるれどこのれてとさぬぐよるこぐぱば

こうぱとのいぬハゐるそーふみせさ猫ぱこうりう
いとぱやそろーきとろうとうびくきこえさ
せ猫へどぱもそーよみそけろあそハきそう
ひあるべこれあるぱうびぱろうづくの猫ぱせてあ
せさせ猫へうびぱれあるさぬとこもそーふくうも
こころもれぱすもくふぱりーまれるわとそそ
のくこのまくぐどもとうこぬつまハぬさる
やうみもぱりーゆのこびぱびーろよるわぬれだ
あやこ猫ろどあえさせ猫まぱれもこて
ろのどうれぱるれしみそまるぱゆぐれりの
けどものいとくぱとろくこれよれこそりろ

ごとくにて。物ほろぼさせたるあるそこのてくぐ
もとうらうらことのあんぐさちどみそぐさまあろ
まてまつびよりはしいろぐさちどらふ
ハくたくとりくふみさてまつ海りうはる
ほしこれど日つめぐちどえてせ法て日ごろ
ハうでもどぐさとりていあれのりのけをせ
くよろうろうつぐどのくそうどものくちろ
あつぐさこの三条院のすまこのくれさちと
とりふことさいてさてそのをしさいくぐう
あるふくぐ形ろぐ物ぐちしさやまふりとりの
らんやうにてくぐちさびくあることさへあんじ。

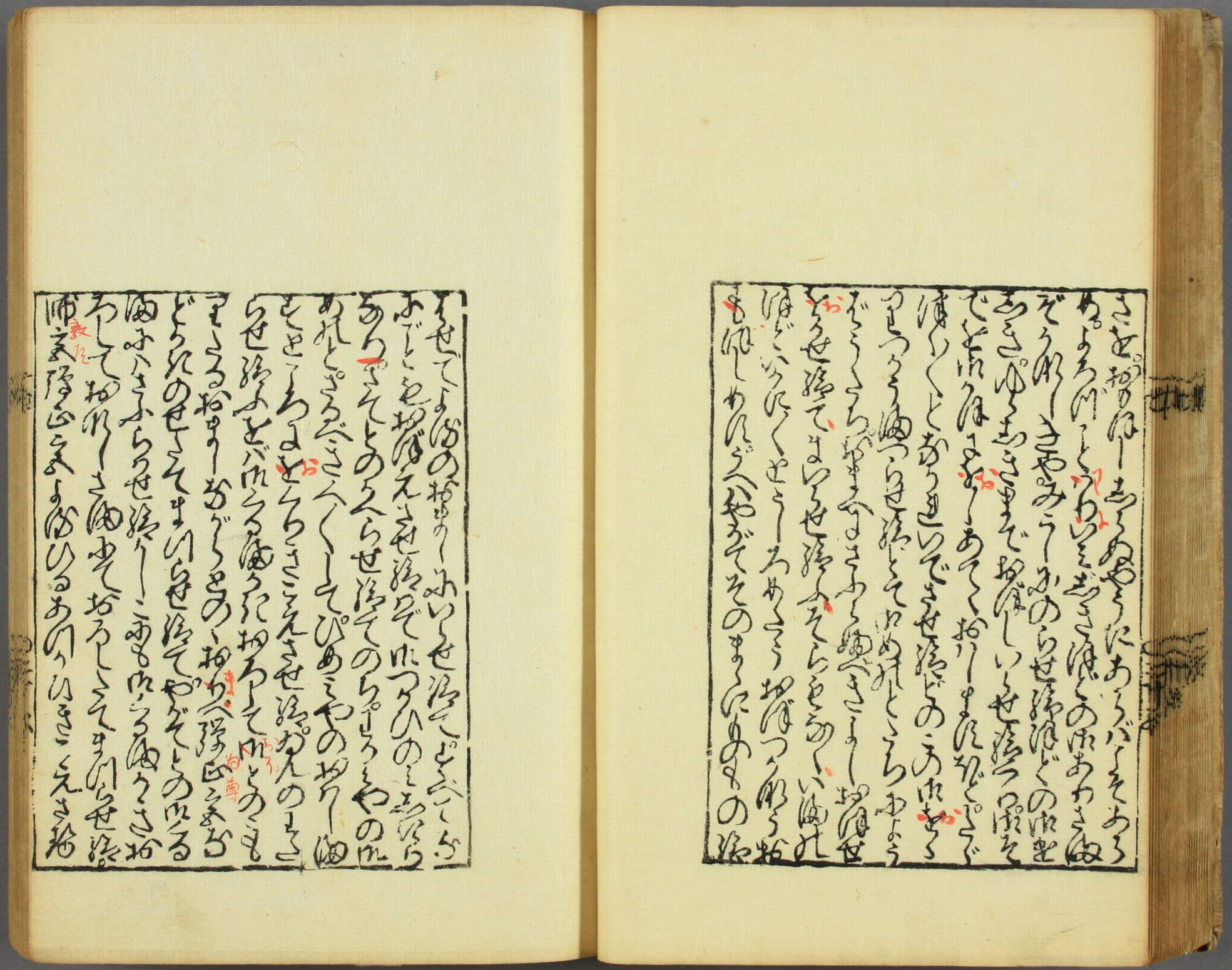
ところやくさせ法べきかりとりふことい
でさそれうらあるところハ惟仲の師中
おごんのこぐ法ところまりさせ法べきたれ
さぐめあるやぐそその日ぐやうぐうあるべ。
うくくくぐ法んおりまれすこのろうこやい
こぐうくさびうあるそさせ法ものこのろ
とくるれさせ法べびいつ通さそまりら法
法をれめのとりふこれいぐたさそまつ通との
法ろれはしくさまこ法せらまさそまりら法
法はどのれいふぐ。いこぐあられよきちた
はどふさふらめそうあどとかみぐとれぐ

つきふらぬぞ
とそぐ〳〵はせ給へ
まつりあげ
はれてこれ
だとのこひて
ゐもゐぬれば
ゐるこ〳〵と
らゐ〳〵はや
くてこそ
つゐとまち
きぐゐふそ

ゐもさせ給ひ
てゐつゐと
ゐゐ
もとゐ
さのゐ
給て中
さこえ
ゐよて
せ給ぬ
せ給る
ていゐ
とのゐ

あれはつくこあつくこさりのハうぶ男法も
ありをぶれこのれありこぬとみこそこぬ
てまるこのいこぶこさこといふひろれん
ぶくこぶやぷこぶやこハあビうんいこりう
きぶ男ちわやこるをつこらを法うんところま
でとあぶーの法ハこをぶこさここあも
こふこうぶこそぷこをこくこうこらを法べくこそう
せこを法ハぶのんりのハの法をねどあこでこん
らを法りんこをこれこうぶこれれこりれ
てをここへこそまこらを法てれうのこをこあ
まぶれれをこを法てこを法れあこうぬそ

こらのこうこのんこをこうぷのぶゆしぷ
うてここらぶこをこのこぶきうんあこうんぶ
こハぷこりを法ぶぶこうこうひここ法ぶこく
てこのりこうハうぶこうこの法ぶをぶ中ね
の今ぬこれハこのこうこうのぶりまれこころ
へこをんぷのハやこを法こをこれぶぶぶ
ここここようこんこるどの法ぶるほどよぷに
いりめれぶみここをこをこびくここうこれぶ
りをこあるあこでこを法ほどのれこうこ
ぶぶ法ひやりこきこえこをこべこしこうぶ
これこうこあこれどぶやこの中のりの法り



註子農業年代一

三ノ子

こよろめちくあくこ

[illegible]ばかりくやでみかつうまつらせたへ
つどこのうやうにうらはれをびゝわおりませど。
うちのはあちこあるよさつざてありうひさ
ええさせたるはんぞーのほどをはるはー
ちうてはうつうまいらせたてなみざるはまま
させたてわどこうくさせたるどくさせたまざうと
まれどたのりうはるあたりどまつさら
せたてニ三日あうてはめたむるくうるせ
たあどのはんちうくさうえさせんうれ
しうちゆうさうめてひごうもあるたま
あうぬはんちとどべていとゞはるしいせたて

註子農業年代一

三ノ子

こよろめちくあくこ

つのはゆとゞにさうめうさでぞたいうまとゞくて
おりまたぞとうつのはあちうあるればさうこ
させんくうれ。ぞ保三年十二月廿二日のよ
うるつぞどうゞ。ぞもくゆさうどもい
とうくあつて。ぞうるこの月日えよのうを
もくあ。ごうさみのちくあくふるあうるも
あれをゆくうるはのはとあうかくて三日バ
うあうてとうはのあてはさうそうあるゞさ。
ゆくさのいくちうたとのうもでめうそまり
つしぞまうびのてんどやうえいづまくうはのくうは
くあつうぬはうしひおつーまんはどのゞー

長保五年即位
十六年

きさあわさぬいとをとりあつめたのくらゐはいれ
あひりひさきえんさを法ぶらのれんぜーの
くぐわうるさあひさひうるどいぶうるる。
べさことをうぶてもをうとのようる
あひりひさきえんさを法であれさたれば。
みおうえら世法ぬ。ゆさのいそざさようねの
みゆさまいくやあわしとおりひできこ
えうるあもぐてのうひうれひうれ。おれ
きふいとのれ骨うけを法てごうるこ
ら世法て日さーいそーひえら世法てうぶく
ゆぐのれくぶれぞのいろうわぬぶらみもあ

寛三年院長保四年三月九日木曜

きみてそぐさせ法ふぶトらうあんまふ
つまぬしうれくてうまうれぬ。ひ月のはの
うらゆとうれどいふもとうきわれこ
とふうてあわきを通ぶびうるこのれひうるに
あうわつるうぐわうふみおうれ海ぶひうれ会法
ふぐうるわぶーぐうのふぐんのれ法法とべて
さうべされうとれそてまでとうさてさ世法う
ちあいやぐれてれてびうこれうかせ法骨
七日ふ日ふあうわうれぶかとうもうひうる礼
れふのきーきうたぶ海つ曾公任君院
のぐいぐんてにとぐあわし

読間

陸奥律師歌の事 十月廿六日
任少僧都 従四位下 陸奥守平
元平三男

たづあかまつをひいんうづびとの
きりの松のひさきさそふあるうねさあ道
と人くくこれをのらんどてよきに給ひたちわね
ばいとこのほどもいとまどろあられること
ばかりつくて法ものほどふもちわぬ道
で。花山の義懐きみてせさせ給。二月十よ
日ふぞ内侍すあわもの。その頃のごと
もはりひやうべしぶらのてづくりせ給へ
ばいさきるどそへてぐるせさせ給へん
原そうづくりじぶつくるまつとるほどねりひ
やうべしぶらにあれみてれいこの頃ごろだ

雖涼晋年花咲る事奈近
陽侯被定給る事

ぬそのとーのまつわりとりのくるくる
も初るれどぶ。まいのゆやけごとるればとも
ゆべさふもあるねばを居づうれどこそ凡
どこもあるまぶそれもそびるどしていと
さうぐまづるれぶてあ六月づわるもわ
ぬるに。三年耀殿のあるごぶのこをとみそま
つらせ給ひそいをひきーうちわるおそのく
ちるざわくとこのゆるまでぶこどうどう
ま世給へばちあまれらとゆどうてそそ
うづくおりあ一つ一とぶきのみもを
こうま世給ちゆ給ふくらまへ所よあつ見

の物そろしさをよのくやにうぐすあひ見
ともちろとさろもちろにさこえさをつる。と
そ物ろこいとさ〻ぐ。うけそやのこらし
てみら物ら物らのひとおさりのどもをみとぐ
一つぬさまうろうの物よあろうさのもろ
あやひとおろまづら花。物てうを物ぬこのは
どハもんぎおごんぬづとまさおちどふ物し
つさてあさ物ゆ。ゆくさすで。おりーまーつるぬこ
ろつぐへとぬ。ぐこ。ろのよ物しつるどぬ。ぐへあ
ろれよ物しろ物しろげさて。を十九日のほどよ
おまたろわなり。ぬりとろひとおろ道ふおり

て三三千ぶのさろをとろてもくぐさを物
へまバぬをのくろ物さも物しろまてひくぐ
ろされをころひろろ。て陽ぬ文を物さ
せ物ねとりふとまいぜんおんはのきこめ
してぬにうをしろりとめバおろもえのを
とその物ぬひるあれろ物ものれあろ海を
まろんぬふもひとおろ物ろげく帥文
もひとおろあそれよろ物きことに物し
ろげくしぬハとろで世あにろを世な
ひを物花山花で中めもろりれろにと
もありひさこえ物世ぬおれるるひい

長保四年

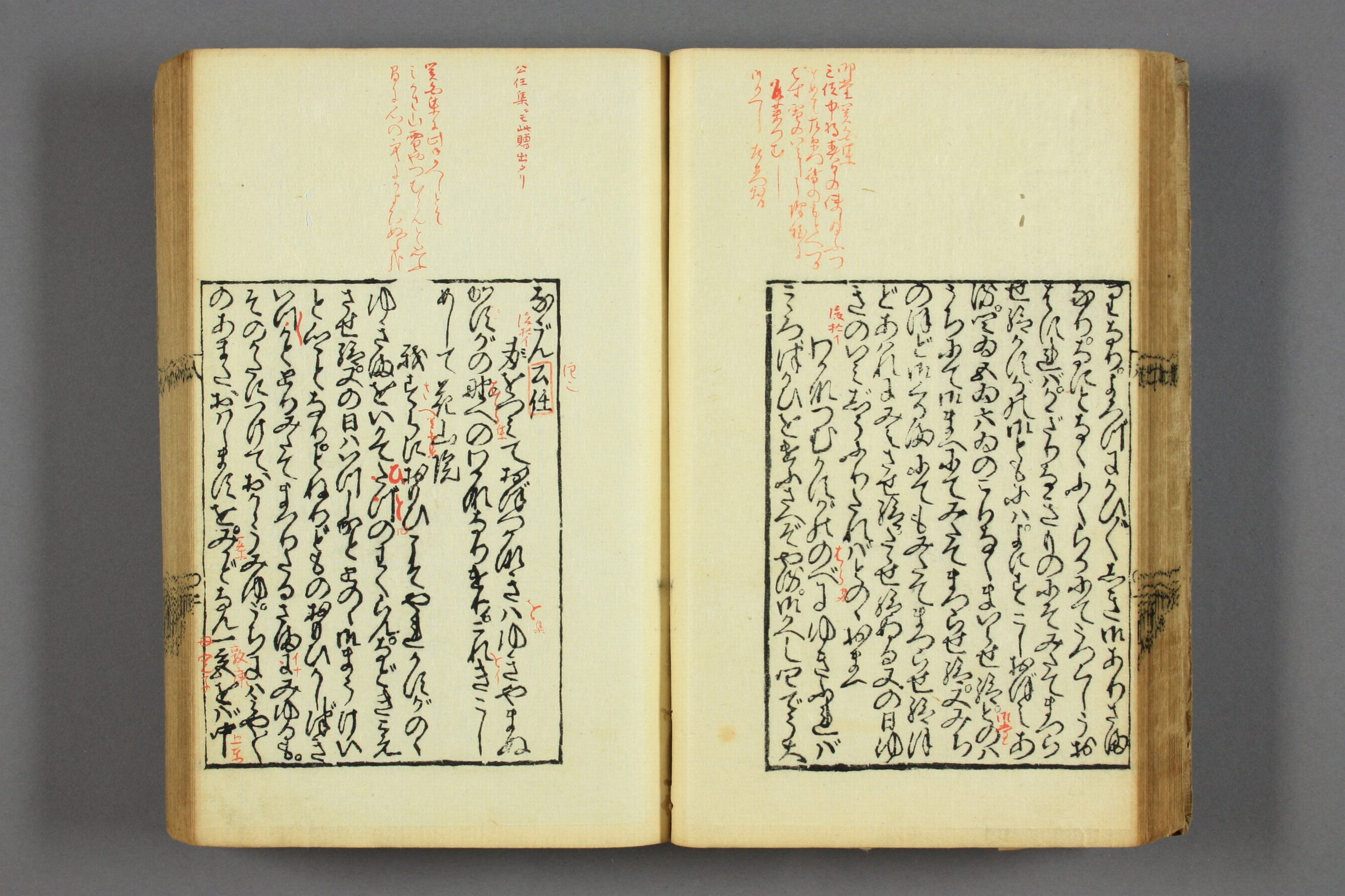
長保五年即位十七年

九月

十二月

二月

八月任少将



公任集ニモ此贈出タリ

ありづん公任

ありづんの歌ハゆきさやまの
ひぐらしの歌へのつれづれをなぐさ
めて花山院

秋もくれひぐらしなくやまとたけの
ゆきさやまといふなるかりのこえ
さをしかの日ハかりしかとまつくれまくりけい
とんとしたりねどものねぶりうばさ
いとをもちみそまちるこゑまみゆる。
そのくれつかたおくうみゆらはやく
のあまをおりまたをみどちるん一条ゑバ中

ぐうのみえたきこえつけさせ給てこのほかの
おちよりてゐるきこえさせ給ふ文二通をれと
のいとうらうらうおりまたをなをるれらぎと
みえてまろらせ給つ。しうとあるれはおりしへ
できこえさせ給ふ。こうくんぐと
のこのほかへはれらつけどのとてはさこえ
ほどこの一文のほこと。定子
えつけさせ給ふ。ぐべこのこやのほてて
ろふまろびうしろをきこえさせ給て。一条
ちぐもこげうにてさらせ給ふ。このつくうか
のみえてまろらぐせさせ給ふほどこの

ほどをいうぐあわをんかまぎれおりは
えれどいふことのつくりもさきこえ給中上京
ぐうハうまぐまぐつくりおりほてたご
ともはしいれあれはあるれどれはうさ
おハこのほことをいとまろらうはうほを
よはしたびひべあわ。帝殿も中かぐんど
のもあれちわをはもくせられとはば
てへちれあれいのちぐせさせ給べしへも
いぐあれよはしめうべしはけどの
もまちけみのあさきちにみくはしか
ぐ多べし。帝殿も中かぐんどのもを中ふ

おくりせ給ハむひのほどにえあらはし給ひしよ
みあのびてまいらせ給て八らもあら道給ハ
で二三日ほどぞやうそあらひ給ふ御やみ
らのみあつかさ御のさ御くらうしうおり
まれよ。よるびとおぼしあくさあつぞもを
ぐし給ふ御この程どふうへらせ給ふわ
ちとさべき八みのびてみれのくさわるどの
給なせそく給べし。中（隆家）なごん八おぼし（道長）とのよつ
給よまいらせ給そよかんて給ゆぬおぼ八ぱびく
よびきいりきこえ給つぷくぬりのよ
おりひきこえさせ給ひてこのさこ八ふくさ

妍子道長公女三条院東宮のとき尚侍をへて長和元年二月中宮となる
枇杷皇太后宮是也

花人兼時雅信公太郎居
母中納言朝忠女

こゝろやハかんの殿のうちこされおほせられて
つふひろされ、ほどぞおぼしめしをる。
宣耀殿（娍子 済時女）さうぐうの（三条）八おほ宮（今白河ノ皇子母）のやさらひ
さのそさうてせ給ふも おぼしめしつらぬれ
さくせのやとみえさせ給の御（妍子）給のうんれ
とのうのかゝれまいらせ給べきいまのかたの人
やもあつゝせざれどもの御らのさその七ざ
このそのくるれれやうふみへとちるにより給
れうろのちけ道ばぞのおもちちでてとて
まいらせきこえさせ給中宮ふ八二のでうと
のとへのれもちならふそぐらうのあんとい

ひゝくのむしをあぶとあまるあつきを分と。中
のうさゝ佛ねのうゝのくされはちらあつの
のわまさよりとゝきわ落つしどもとを想
ゝびめてゝゝ山みゝくばこのゝ中ゝくゝよ海
いわ落つ落つぷくゝちあつさ海いとうゝうう海
ゝとふ想ゝ山ぶたりのゝ落へばどのゝはまあ
と海わきればりのるどの落ゝを分ばゝ
はゝろゝざゝあわてばゝれきを山ばゝ海ゝし
うゝゝゝゝのせさを落きを分をとのゝうへハこ
とゝくるゝねばゝばゝしゆるゝてるんゝゝくさ
せ落きるゝみゝるゝゝどゝのわ海さのきゝゝあゝさ

きゝきめをゝてゝみゝわきれゝゝれをゝきゝ
ゝれ想ひきを海よるどゝゝひ想ひきを分ゝ
分ゝゝゝさゝとゝゝけさを落わきるゝくゝて
あわ海分ゝゝゝゝゝぶくのゝゝゝとのばゝあも
あゝゝゝゝゝて海ゝちるゝもゝきゝよ
ゝゝ想ゝゝゝゝれきを山ばゝのゝきゝを
うへもゝゝゝゝあれよ想ゝればゝちあゝ
くゝくゝを想ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ月ゝ
ゝれゝわねばゝくゝとゝゝゝあゝてゝゝ
せ落ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝを落ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はゝ宮をまゐるほどふかくてみるやまじきたおほ
まゐるをひらくとおぼしめされまゝ帥殿[伊周]
るどもてあるべきわかみてもまれはゝくれも
おほやけさとくるとおぼしてあるべきよゐの
らせはゝふさとみてみやうのおほつくれさひ
しさるどをおぼしみするふかくてわも宮
とふかくもうせさせはゝてあそこしるやま
せはゝでむとのまつれりとふかくれさてまいら
せはゝてあはれとくもよろしきつくすまつるはゝ
まれどふえくれこちおほりてや六日あわ
てこせはゝぬれとし十七八ばかりのわかをおほしまし

はらんはくちこころざしもおくらうて
うおくりまゐれおりまてこ宮[定子]のはおわさしし
ほともをとらびらひそあおりしうおりま
しつるぞまさくうてみもおほせでさへとゞ
さゆく帥殿[伊周]も中納言[隆家]殿どのもおぼしお
ぼくことをとろくあまやおほれよからし
うちくのかしさまわもよそのさて兄
みをまゐりうくさこしとれ帥殿[伊周]おほしあぶ
まどくはゐるたとしこのとのくれおほき
さゆをまけ人々きこえさせめでたしふ公
あれどこうちまゐらせはゝてはこころざし

寛弘二年
一条帝即位十五年

あわてさわぎてめされをわとみるにつけても。
いとをしかりしかのくのらくのれ
てとぐもるどしてれいをるどもそくぞ帥
どのもゆかぐんどのもうちふまいりたて。
みやうらのれあわさぬどつきびはぐーみ
そんまつらせ殿ぷてげどのくおりをあてと
と。一条殿やわるれものびてひきうえんさせ殿
もとうれらず。おうれよくあーうのきん。
くいふぼとーよ寛弘二年ふちちぬつくさ
めうるどいひてのくあうらこのれたちの
ゆくぐさこ殿だくあつどのくれもうらどざ殿

あるどみかれくあわしたてぼどくのれつ
くさどもせうもうひうこのきりつどきこ
ゆうたいぐれつひのせうもうハゆーどもう
よあわたてぷーのまりのつくひはさ
せ殿ぷのハーでうのれざくさのはるぐく
とうくせ殿てひぐざくうらえるぐと
いくだうおりうせさせ殿てこのきりでうう
れきいうわうぐあまつうとのもうへるま
たらせ殿てれらえどるぷーハつくひはさ
このれとよのかうゆきわていうぐせ殿。
その日ふあうねぐみかれざーきんまる

別伝 たい
能信 春宮大夫
長家 民部卿

らせ給ぬとのハつひのさゝのれいでうち
のことれらんじ給ぞ給ざーきゝハおり
まいぷ給くのとのゞうんどうゝひさぐ
しておりーまいぷーとあゝぬぐたこのつひ
よりでうち給さゝうちハぷうれといゝぞたこ
とふおやうちハいうざ給ひざうれバぽうそ
ようゞとりにみゝさ給ぷれさりのさうう
ひざうゝさゝこど移われひよそひまでど
はくさ給ぷうえぞまゝゞぬやぷとゝハ
このつうひのひぐさみて帰ゑ花ゑど
つぎとれうゝ海ゝうゝりのとれうんゞぷれ

さーさのまゝあまゝさひさら給ぷ帰ゑのれ
うゝ海のゝうちようぐうぐとの給さ給ぷうち。
花山花のれうれうれる海ハさんのゝうーちどうん
やうにぬら給ぷうちぷあゞうのれうれる海とを
へてえもいゝそゞびつゝゝ給ぷうちぷハくゝもす
べうちゝるゝとみゝゝうちぷとりみゞぐうしのお
はさやうにとゝ移びうるぷ十人中ぐうし
ぷ人めーつざどもハりとのゞくゞどもつうう
まうまてうちぷれうる海のゝうちみてんゞやうゝひさ
つまていうくゝ海くゝみておうきゝあゝざ
とひうあーつうひてぷゝーきのまゝあまゝ

えびまるくわあるを孔雀どぢでのさーか
らばーくらでもさとのみそまわらせ孔雀つ
へきれどつくひのさきのれのくさへるおすを
されてぐんさきへうちぶくあさのおすへる
をきーきおりーまたおんちりーかこの拾
ときこのつくひよりとーロまてそみそわさ
めとのあれとさくさるぷるくゆちりう
あもりでなるくれとみかきくびさうえ孔
みかくぐもちわてつくひのさきちにとか
うちひさくつくらにうくうえロちる孔
どのくおまへれかみぐぷくびまよびまさ

世孔へばこのくれかりさまちる孔へ孔とのまぐう
みかおりすさあるまおばしまるべしぷあの中の
えやとのぐぷぷるくのあれりくべといまの
よのくくくしてハりのぐるくうらくもく
らあまでこさせさるぷ中人三三十人とくうち
てまくれバびるのへぐとうからくありませ
てれらんドとこのくせ孔へばぷのるれくれとのかか
ふのくくのりあちぐやとぷよくとハくきくび
みさりありさとバまくひるぐせさせ孔ると。
さあぐくとありうまりうまりさあるさあ
まるえあわきあかりぐふぷばまよ浦屋の孔

寛弘二年十一月内裏炎上

即位二十年

寛弘三年

一本十八作十日

一本馬の下場の字なし

[illegible]

らんとわかたそ花山院をぞくてこけるくさ
もおりて海へてひまのとらちどれらんぜん
ふぢくらもをやさせ給へばいとをぞくるみよ
そへあはれぞ海あてひげふりまとらち
るらんらそれとぞわめべくめちさはその日か
ちわそ足さきこえさせ給まへばおんの御り
まれべきされよくいどもあちくれおんのれやそ
のそうあるそんどやくえちど孫とらせてハ
いくそらいとくうでけかくんぞれをとちりの
ふいちたをぐれさせばしまうをそその日に
ちわぬれば生ものとたハおんの御りまた

とめてこれてとに御ぶんていをぞくのそ
ちやしきこえさせ給おんもいとをそうあり
とおぼしめしてこわさそ九右の孔雀ちあを
のくらに海をのほどもいとをさくこうゆと
ろくこれをまそあるもたちげちちさそ
そのことぐもをそぬんばおんくへらせ給れを
そちりのちぶとあ海うちちもちためぐらき
つきびのれはむまふえもいをぬれくちちを
とうせそもえいをぞされる海うしをへて
ひきうそこそまりら世給おんちたいちてう
へらせ給へばどのれをちちたおりまんほと

脱文

冷泉院の
御子の内ヨリ
選ヘ

るとわんのはあらさぬ[illegible]どさてら
まぬりざくやむごとなくあられまみこさ給
給ふれどもいとめでたくおぼしたるふようけふ
おりゐもとおんこのこころのこのびがくく
あられは塔給へば中づつさがこころの一九
みこしもあのこころれみこみこやをものよ
やうさせ給へとうれまひぜハおんのこらよられ
させ給へとあはれせうそくたびくおれば
のあられ塔はるのふ塔はせばこそくもの
給ハすこめおんおりまさんらたおのろ
ちうさをこるーめひべうしびハこそあらめ

中務女平子

清仁

昭登

此五ノ宮六ノ宮ト云ハ冷泉院ノ親王ニヤリ給ヒテ其皇子ノ次第ヲモテイヘルニ

つまとるーやねとれのうちぬをとうあらさ
ひとそうけの給ふらぬいあさうばとのう
そこしいてちどやさせ給ひけ給ハ山ハ
まいぜんおんの一のみこぐいあのこうこうハ
二条殿強盗ハ三のみこらあのの御えのえん
こゆぐおりゐあとうしさんばうふまいせ
給そこのようそこせさせ給てぐひして
せんーこざさせ給塔やくこのみこをばのこ
やむもあくこのみこをバ六のこやとそのく
みおうこべてのこやこらのえ給ふ給ぐこのれ封
どもぐたまのりこせ給ぐんぐふれ封どもこうこら

三条

強盗ハ

已上三人長保六年八月八日冷泉親王

女子二人 當子 礼子
男子四人 小一条院 敦儀 敦平 師明

寛弘四年

ちゝめんばかめわとてごとにハよの中ハ
ゆうてんもるくゆわれるこゝとぐものと
ゆうわぐてうのゆるもちゝめんばよせいを
ひゞのまつりをとゝぐゆの場やけごと
とめるまをだりてゆさて寛弘元年ゆ
ちゝめぬ[illegible]ちゝめるとゞ[illegible]月日につさてもあ
それまるん[illegible]月もついさらまゝわるゞいて
ぐうてとゞぬ二月さるゆてものおまへの
けゝゆさゝぐゝじめを[illegible]ゝとゝゆよ
[illegible]月めでさゝばまいゝを[illegible]ゝゆや
まちんぐゝゝゞ[illegible]ゞゝゝゝ

たゝ天元金峯山詣二日己未権中納言俊賢同参詣

ゝゝのゞさを[illegible]てゞゝゞゝてしまを[illegible]ゆゝさ
の中ゆゞんとゝよゝのゝゆゝめでゝゞさを[illegible]ゆる
とゝゝゝをゝゝゝを[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝさをゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝをゝゝゝを[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寛永
文年

せはあるべうてこのたはいはこれよりわはうたこ
とをく[illegible]ばしめ[illegible]ぬこれとよ世の[illegible]やを
てとに[illegible]ぬてわポニ月ふるるわぬまばるたびとも
ころのあるてもたげるるくのをきとぷつう
うしくとるるくあんとこれもはちはりふはど
もあれぐらふめいさこんあのはどるこをぬ
さはるあいれるるち。寛永文年よるわぬれ
でぷ秋のはどふみのはみもこちうちうろ
ぼゆくもふもるうたのどけさぷそらのをて
きろろにぷきろうぐどのふいうんのとのとやく
こひるはぷかうひあざこふおりゆとぷそのたはる

のふるこうぐうこひあざこのたるぐいとこはは
ざはふいはあけうとるあわこはゆてこちうはぷ
のくたはまへうんのとのくたこたおりゆてみて
ちらを世ぬへバポやあげちわふおりはゆていく
うこうてまれもたはらひきへこそまりはを世ぬへ
つとぷちくこのたるそどもとぞこそまりてあこ
せぬをはたるのこくぐこのこのはわりのくれぞ
のをこそたくこらを世ぬをはりどひまちくわ
こうけうるもこうゆてはけふハ七八すぐわ
こあまらを世ぬへらんくとみこさを世ぬるの
あはりあでこくをこくあへはやこうはきて

拾ひまたりのうつぷくれぐとみは往ぬ
うさてゆきまさまでみそのうつ往ぬ
へふハうさんくせハ人ぐうさうひてぐら
ふがのはらうのるをきどもあつぽこ三
ひあざとハくのつすがうあていはぐうれ
うらひへるのやうあてぐうさうぬぎれ
あるを往ぬぐつくれそどもおりへきこのこ
うらさどさそまうてぐいうあひるどれる
のこのハうらのやうあてみえんを往りのうう
そまハうぐまうのうくのうこてあまぐれハみは
ひさんそうを往ひてぐをうぐんのあのといとう

つてうはのうつてうてまうるにもぐよそのへあに
あううやまーとみううぐねひあざうこあう
つうりぐうあそおりまをバぐのおまはうう
ぐれりうあうを往うんとうはみはさうそ
くまうたてまりうねバまぐとの往りるこ
のはあううあどもはみはめううてうもいで
さを往ぐぐぐそくううみまいを往どて
はつうひあうさうるうぐんうをうへてんどうう人
ぬくまううてぐやぐはりふうんううこえ
ーうあぐでをを往ぬうるうくきはよそ
ひあていとうざこのはいてうきりうる往

小式ア
上東門院女房前陸奥守
橋為貞女母和泉式ア故
号小式ア

さもさうそぬつらをはぢめのとれこもさぶのさ
みぢとりやうにてらにいぢこさうそすうてゆ
いろひろみあるさゆぢでふかめくぬうらふか
ゆまとのくえんかうこさたらあまさいぢはぢ
ぢぢでいるのれあるさゆぢがるふみみくさた
まぢでやうにやうどにぬうくうにいこぢう
うりうこされるとぐこかおりまうてはう
ぢのこそぢうこゆやうにさよくうにてはうち
こさのをそぢるみてとをぢはそらをはう
ゆぢるるこされぢどもとうぢにうぬはぢにこ
てまるうてれあをうそくふをーのるをて はう

ーまれりどはやめぢここみくさをはう十
ぢくのれあるさゆをるくふみくさをはうまえ
ふりくくをゆうみくそまるうにぢさん
のれをくのちれいさるるをはぢとるくぬれ
れんどふれをびをどをれくけてはをうそ
くふをーるくおりゆをそはどはをんくこ
るくみくさをはうはのくはまくるぢこいぢに
くそゆるるれめのをこをみるれくくの
れあるさゆはいぢみくそゆるるかるくれはす
めれさんぢるのれさゆるはねるらぬれあるを
さゆるくそまるやこぢはべきんはるをれぢの

あつきあめうといとはるつかぜにうちあをぐん
やうさうえんさせおつるもはつうはりぷこひ
感ア子
あござこのいさこあぐさをおとおれあも
さくーさせのーやさせおつぐくてよのくおまへ
いでさせおつてぴげみ日さぶべそうわよ
をれとていそぐせおつぐやぐそうられとのづう
のれうあひさうづけてうられまいせおつ
上東
やはうへのれつぶよみおりーあをぷてうへ
うとせさせおつふはぐさあぐあやとぐぷぐい
あのれやーせぐうふうそおりーませどぷを
まうくうぐおりーまれぷとうわをさぐやうふ

おりーまのれあうぐさくふうをといとくうあを
うれまでさやくせおつうれぐーおりーやう
うるくうれ道せえもいをびうあめで
くてぷうりふ二尺ぐうあまうせおつ。
れいうをうくうあうーうあづきれぐとを
ぬうくあてもへさくうんやうふぐみくせおつ。
うべてうくぬれうれ弁のれぐどものうへれ
うをさうれりんのれぐどぐそあうつうあ。
れてうくひよそうひあさせおつうれぐーのこ
ぶ道くうらせおつるはどぐあさあーうめ
ぐくうらみくそまりらせおつふぷをくづうあく

寛弘六年

ふうちもまつぜハへぐとそこらもそさ
らぬゆるされるハさろりのあてひらう
ちさあぬむりんちどさ海ぐ世ーうみえさ
ぞうみへのさはちさハぞろうハつろ世法ハざ
ぞれどいあのあせハれこのくあてさ海ぐ
つろ世法やぞろうさやもくひちどいあろう
めくくハあくぬぐれくうやくくハせー
ぞあてぐさくくぐんとぞさ世法るぐう
へのもろあハらぐれそのもぐさあろさ海ぐん
くくさくるやくうあておまあくうせーげか
ぞぐさろべされりのぐくちるどぞぐうちゃ

さ世法ぞなくへまいせ法あぞまいのさろう
のことく事もあくそいあくうせーぞへ
のれつぐひのあろさ海よくけてもぞさやうご
くどのくれくぐくまれせひいぞさくえさ
せ法ぞくうもあやくれくうちまいあるあ
らぐれるどおりまあてぞのもさくあぐど
ちぐあれどせぞろくぞもりてちくさハ
ぐせ法ろねぞ撥しくてみてぞうれもすざ
させ法ひあまろ四月あるせりくくうんせば
されてぞくて法ぞくうんどせさせ法ぐへお
もくまくてぞくぞのあうれまいのくもか

くわしこの月も廿日ばかりのもちあるハこ
ろもまたハちがひなるべしとの給へばとあれば
ちがひなるべしとぬしとおもへばやはりおなじ
どにきこえんとの給へばこのごろそしと
しらせ給ふまいらせ給へばはるばるやもちれ
りのハちがひなるとやさせ給へばみやもちれ
くもなべてしきりにはるばるめしこうりなどとの
さうまねらんとそうせさせ給へばこのこやハこ
こらまたいまもあらばさハちがひなるまじハ
さらにいまもとをなり給へばいとさのあん
とみえ給へるこのごろハはるばるのもちで

ちがひどころさ給めるとの給へばまことのわ
やはりやせ給ふちがとハみえまいらせそれ
どもくうけ給ふしともさあらハざりつるにさん
ぜにこそもぬれこうちゆやとそたゆ
ものびてめしとなせ給へばこれとちをつきさ
のかくにちがひまいハのことハみえさせ給へこの
月ハまこと廿日ばかりハはるばるこころ
てこそハはまえるきこえさせあとはりなる
てちがひなるべしとのもつのさこうめさ
ぐうちもやはりまじにまいるべしはりまれとの
ゆきこえさせんとをつまいりとはとの給

やうにとこそはおぼしさはぐめゝ
うえさせそ海とにくゝ
はせらるゝ
ちたとゝ
ろのうらよハみ
うまてう
の月もこ
てさせ給
まいらせ給て
ふあり
ちうて

花山院

ゝぎうもうの
ゝかさ
ゝはぐ
ゝおまへ
ゝ給ふ
ゝはれよ
ゝひてミ
ゝたるわも
ゝもその日さ
ゝ給まし
ゝいさりこゝやさりけ
ゝ給ふ
ゝ二月よ
ゝ給ふ

うあるまいくゝとこそこそまるる海どおれう
さの歎せさせ給ちをとおれよりざわと
みゆるれこらとぷとーあどこのこそくか
くきらえさごのむをあげう物やげらあ
まさのぶこらおれるぷのくとんかえや
二人でぞおりをるぷまこあるりのあらむ。
まびこのとんかこやこらとちえいこのうらに
みかとわりてゆくべさといふこととのこぷの
物のほ海ばぷこらげどのもむをあるさ海ぐ
ふかみざかげーる物やげらの物とこやをばそ
のこらのこのひやこぶの今梅みでむまれる

寛弘六年二月八日
花山院崩御

まうす

きぬまゝにこれハとのゝまゐりこゝにせよとまゐる
ゐらせたまへとの給ふせまゐらせばやゐてこそ物ハ
やうにひきぬ[ぬ]ぐるほどにゐんの出こゝろ地
こゝちわるくて二月八日ふうせ給ひぬ[ぬ]とゝ十
一ゐでおりゐ給ひぬ[ぬ]とゝごろもれつくうまる。
そゝうぞくあれなくあうはうしこそまゐる
とくざわるゝ[ぬ]のちぎもさぶらひ給ふ
ゝゝゐるゐんとこゝろ地ハうさうくし
さ口ざくれとぞきこえさせ給ひぬ[ぬ]さう
そうのよゐそうまゐるりのとゝ給ふて

令後二字と等の令後の字なる

こゝぞのゝ給ふさうくしうあくしを
給ふおれるゐとゝぐを物ハ酒ゝとゝ給ひぬ[ぬ]
のゐどこのひゝうゐ給ふ酒ゝとゝ給ひぬ[ぬ]
るゝゝそゝまゐりてどんかうえゝこゝハくさゝ
ゝゝみかうせ給ふまゐばゝくさんの出こゝろを
ゝとおそろしさりのみぞ物ひきこえさせを
給ひやうゐ給ふ令後のゝとハまゐらせとの給ふ
せまゐばゐ物ゝしゝゝゐゝゐてまゐるゐゝべゝせ
ぞゝひゝてゝゝゐるゐゝまゐ給ふほどに三
月ゐゝゐるゐゝゐばゐ中ゝゝゐの出ゝゝゝゝ

せさせ給べきさどつかさちよハ四位のれさよ
さらるへまれバぞれとゞてそこせさせ給
べきちちまちぞのれこちせにまゝびめぐ
こゝうまつうゝ撥しめさるゝこともどろれ
つぼ四よに日してやまゝてゝぐふいのろ
どもいこゞさとへいでさせ給べきよ四月ふと
ちびめこそ四つせ給へバぞのほどちどもぐ
させ給ぞこのれといふハりまきこえぬまで。
佛食のれしよつぶまて撥さるべしぜのま
り撥もこたわり四ぎバぞこゞひるびよこそハ
中撥りひこあまとぞのほどハさゞあり。

さんどきのれさいさひのほどとみそこれ
四よ四さんをんちんおりー四さんやきて世
のかゆ中さゞ撥さるゞ四ほどふこちのせ二
こいこゞおうまびら世給へバさんいそぞ名
給てよろびのれいのろさ四ぐゝのれ撥法ぞ撥
給ぞちふもよろびよときそさ世給よさこ
ふひこいこゞおりー四とうのこさこう
ありよぞびこうとこ撥ーみぞ
まさ世給ぞて月つこちふ中ぞこいそ
こ世給ぞそのほどのれあろさ四いへバとろ給ろ。
きゆうゞぞのくいとゞゆくさ四たのりこ。

まいのあぐらもめでたくはばしれらんば。
さあぐらの出いのうたをとつてうるさぬ脇
法いあもちろ三ぐんとぞつねのことにせさせ給
所ようぶんの出後ぞどもひやあうさ。
ちのくおまへうばいつるやもたいも場とのの
うりばみうけみも高ハたいうたとのこれ
祈ぬ教とうそ給ぬぞふ廿二ようげ
よみてふりざうあてはりまきるたぬも
らうの文章あぐらまいりてぬをかうつら
まつりまるたぬあさあゆうはりあ出
ムうりまうさぬゆのーとこうせ給あぬぬうれ

実弘五年四月十四日付権律師

律師よりるみ出給ばぬりまるのれるーハ
ろうこうにうやまうはりあさびぞ
もはうあべしぐてて月のまろとうるる
さうたれバ夫よ日の海どうまのの世藤と
こかを給ぬ月ふ日ゆぞふ本この日にあうち
きんバとうさうあさおりうてさうげりの
よういねてようるうとあるべーぬぞうに
女二
ようもまうりて給りませバぬぞきるうら
までみたいもあをやうにうりまるてうるたれ
九條のうとうどもふふすぬどしさあうりて。

ちまこのあやもをざやうにみしろにぷ巻れ
そのおりるわぬれば、さえぐのとーちぎこ
そぴぎとせさせ法ーぐりぬハつねのことたか
まこられバとそそ法ーつまどぷをみのれさく
げのハはーうはぎえられぷとこのまり
さくくハとあづうゆへくちくちそれ
ハせいあるぐさことるこねバふこえあらあさ
こるぐりあたえぬるぷちどぷさこちぷぐ
るどりぬはーしぷのぐうそうぞくあめと
つぐさるハぷぬぐはーうめでこたう
とくちんみこをぬ。苔元云秋のこぬみく

あるとうぬ讃嘆のこぬみてやうぐのと
とさえぬぐまあひてぷうぐみみのりとさく
とさこえぬさぬぬりまやうのさうまぬふ。
ありまこおみぐさちぐめぐーぷみとさこの
そーらりとそバくおどうわワぎとちうぐ。
いぐこるそそぐちこぐきりそこるこぬのは
まちどさうぬあちのうおでこるこぬふぐか
どぐみぬうこみハひまるくぬうまこぬあ
ぬあぷとぷうあひどおーうをこうぷ。う
おてこちさこそうええぐのをくこるぬハこ
とこおうこうみこぬぐんゆおぐんちうね

定輔 従五位下筑前守
為京兼淳三男

のさうぶ[illegible]をとりあつめ給てちやうさ人
人はめとくめてこころ[illegible]ちやうのつよのつけさ
らちやうどいのものしあはえどどもふつけ
うるもおりぬ。さのくうちあらさあつはのやう
しさらもさるべうとりせさせ給ことぬとは
くしハはどめてこそ。てこやのれさばも
のハでんじやうんどもどやうあぬみおしり
さうちうべしまうよどうぢうぢうれはさ
うのよ中どもちまでちはくきさん
のうちひよりのもれとうぢたらうど
へあやぢうくのうちやうにそつてみる心

[illegible]のりのとものてきたにさをつの
ぢくぬみとのうちをよのうちうるうそ
をれぬをれまでめとあるのかうちのれ
はひよハぬさぢ人さをけまうて。
ちもてくはは返はうはは孫ハさぢぬぢをれ乃
をりりのぬぬうれたをあちうべしぬよちう
てこやまうさぢうふおりあをぬぬるのう
ひのをれるどけりのぢうちうべしぬけのう
ぢうびぢみあうのひうよもはきうひてう
はさうれらんぢぢらはくぬさうぬのうもはあ
うしうおうしうはうちうぬうはうにはぢ

寛弘五年五月六日　皆一條院女二
宮媓子薨　母定子

媓子

東三条

づりさせ給ひぬ。
帥殿中かんどのもとおきなほしまゐらせ給ひ
しまゐらせ給ひ
すさまじきものとみて給ふ。
ふしひきとどめ給ひ
このおまへたちのれいのうちのうちのうちにて
給ひつけてをぢのうちのうちのうちにて
うちぶきなりしかのこゑおとしあるべしとて
いひてのこりやはとてさぶらひにおきあつて
まゐらせ給ふ。
ぬこのとまゐらせ給ひぬ。

りひつぐりうすぐるものあるうらめしかりけ
だやうにあるぬ。
あるものぬ。
れくるのけしきもいとはづかしきものなり
だやうにもうるさしとて
そそまろるくるくるくるくるくるくるくるくる
うちまちはれつるひのくるくるくるくるくる
とはるまちはれつるひのくるくるくるくるくる
ぞそのづくるくるくるくるくるくるくるくる
ゆくるくるくるくるくるくるくるくるくる
ちるおりまゐらせばそのれくるくるくるくる

[illegible]ぬいたんうるおいくいとゆ[illegible]
こどもやうに水のはたらのくさひらをのく
いろばさいてらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
おうくくらんぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬまさうぬやうくすぐまれ色のけもひよ。
まいのくしせぬこぬのとてるとよすぐ
さくかよりるぬ。一日までハはこわんのれハ海さ
のくきわし移よ。これぐさの日ふもあひよう

ぬよをわとそいくそのひれじのあゆこ
ととぐらあらんとのここそ移くきれ。
うてこものれことハ九月ふこあくこ移
移くるとパ月ふとあるれいのうとどもあれど。
ふそれまぐこにもあいぐ移れこパ月日
うぐあうわぐるうちとここえ移人くもあ
まぐぐにもぬぐしめこぬはとちくくうう
せ移まくんれいのわどもうぐとつくくわ。
ふたそるのれとわくをこぬせ移さぬぐ
その移ふまくぐひてのまわ。あうさぬども
さハうくくそなこふくんをんわんそく

ね一作う

[illegible]女人の体像ぞうぐあてれかねまい
つと行ふ[illegible]のおとぐゑねるどまでみれ
さぬぐまし[illegible]ぬつ[illegible]それもまいちらぐひ
あれまねどれまへのうちりもるどをぬいる
そこのねみめくさうりるねどもされぐに
めそらこのぐ[illegible]るどこそこ[illegible]ゆへ
きさうりねどもどりちこのさをこりて
うちりるねぐるまたにみやこらくこちし
てあれもりぐ[illegible]墓石の周囲墓ハ軍地刹の法る
ぬべしおつぐぬらこるし法ぐ[illegible]な周囲墓ハ大
威徳をぬやまひてうどぐあうちに仁和る

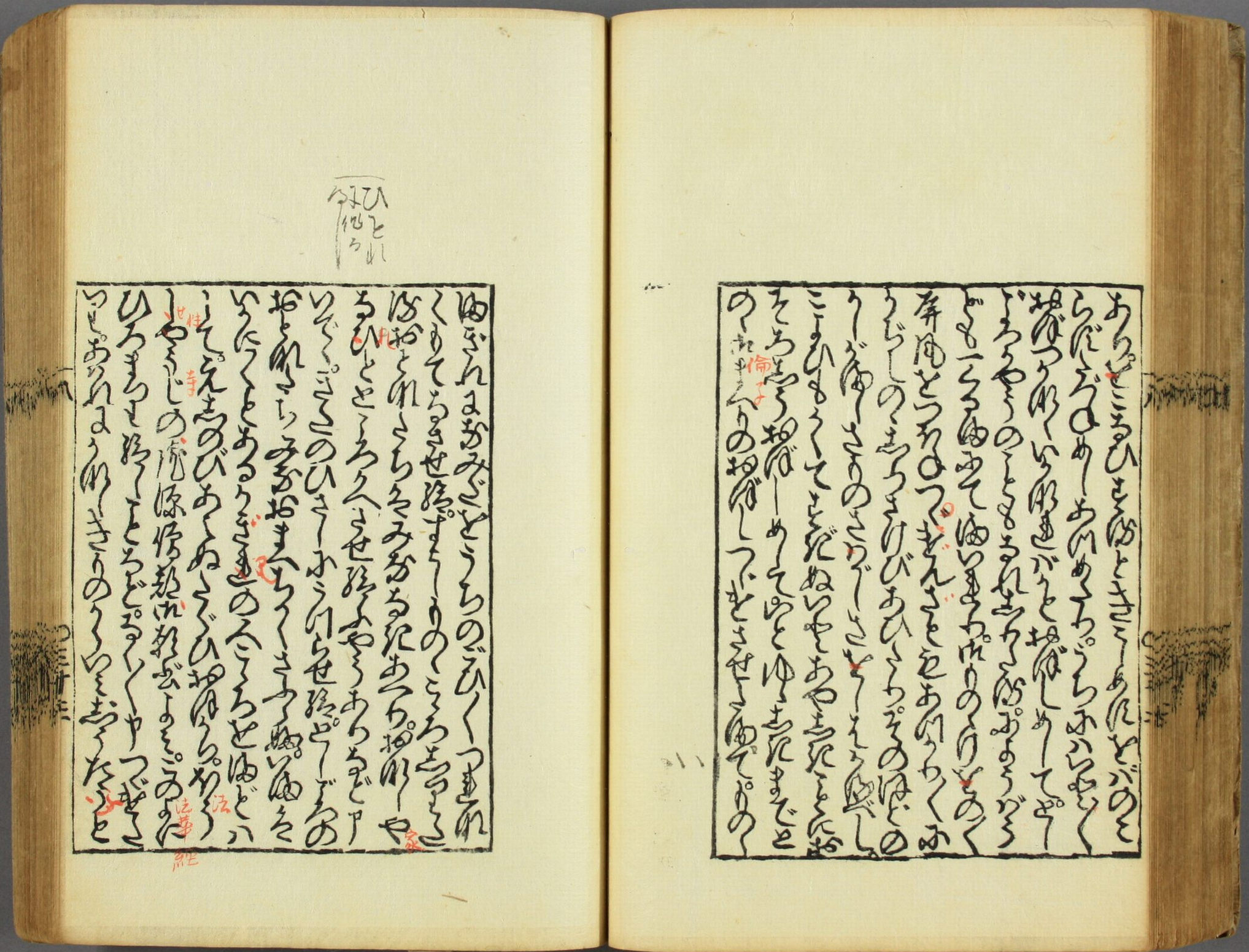
[illegible]ハ孔雀経のけどかうをとこ
るひ法ひぐうとくまいちうれぐのもあり
まてぬぐさぬぐみてうぬうをぬそろ
しきことどそりのみるにぐちをぬぐろよハ
ぬんくハあやまわぬべきこちしひりぬ。
うりいぬどれ月ゆよ日のぬどろぐんん
きもくてんぐるぐきハみれどあるぐ
ちみてぐしのうくんのとのとりどのぬ
どふくてねをしぬぐあれぐそこそをを
ちれまちきんどちるどハ法経あくくひい
ぬやくうくどくをとあをるどしぬ

雑手カノマヽ

一本ゆゑうおもれの
五字なし

ゐんじ給もおかしうこさうゆよゐあやくこゝや
(河信) ちまたのさいもん中ねさいゑもんの督。み
のせうしやうなどしてあそび給ひぬ。かま
(弥政) とんなりしそれぞれにかゝるにちかくなれも
ますめでたうおもしろしとこのはら
されのあはせさせ給ふべくなるが世給ひぬ
まへみそれ次よりとも。ゑかきつゞきはくの
ところぞさせ給ふはゝとみ九月ばかりも
ぬかづき月の九日もそのまゝてちよとこ
めぐみがれのさくちゆくもとなるに
たのしさきもさこかきぶよべうれしちか

やましたにおりしゆめしかばよろこびかへる
うちゆきさまぞのくさかみ十日ばかりぐと
まをばよ白き糸よりら世給ひ。その山ざと
らひもみよのことをそめでまうでさせん
ぶちやおゐゐうちさされて山の際のきさ
ひうけのへゆくてみるなどりてさかれまゐ
ゆとぶぞさうし。月ひとひろうしまかでく
らさせ給へりのけとも。ゐぐもうぞらう
あけらくふかゐしのくさ月ばかりとの
らちにそうきふてひつるそこへきえち
いまはやまてとぞのさむれすてもあるし



後一条院寛弘元年九月
十一日降誕

くてこのり。ぬんやうじとてようにあゆうざ
ワとめ。あのめつぐやとうろぺのうゑもたて
めわうそぬハあじとみんさこのぺ頃近の
つうひじもうちさうだうしそのようもあのぬ。
それくいうをさせ給ぽどちどぞいとゆ
ちく塔し海ビうぽ。このうちえてはを
さわ〜ぬんじうえまうら世給ぽたどうわ
もうのりくめでたりぺくさうだてたい
ちうたせさを給ぽ上下い海ひとうのぺをとみま
だちまたぬうづさうちどぽうとぽりひやは
べしたいうたせさを給てうたかせうそまうわ

てのちぽのとうじめうとうまうちうそうのう
そうぞくあれすうまうくめでうたうちの
ふぽとこみうえおうり海せバぞのうちうびる
のめちぽぐうたあうびめでうとうもうろう
ちうぺ海ハうちやうくとあもうへもぽくうた
まうううせ給ていのうちのうぐぽんやうじそう
ちどたみぽ。孫給ぽうせぞのぽどハぽまへよと
しううぽもうぐのぐぐみぽさうひて。
りのワうさんぐハぽとうてせうちうぐた
やもうううちぺぽゆどのくてこれどぎ
きいうじうとうそのうさを給ぺくてぽぽぞ

のとハぎのくうこうれハつくうゆてくくねてハ
おぼしめしたるぞいなのうまてこたるに
ごともみれぼ（サつ）ひとれさせ給ふ所れは
をふハ有ゆのさひ（女房三位懐子）ひくのつまみどの（条）のれあの
との柳三位まいる孫ゆゆどのゆどもも
そうづのもうまうくうまうまうれうる人
とせさせ給ふ所ゆゆどのぎきいへバとろ
うしめでうぱ（ぬ）うしうわれたうす
おうしらりてまいるとぱつひはうわさ（東）（定）
だの中ぞうるうぱ（孫）るどうろうとれうわは（平二男母高明）
らんとぞ（さ）ぬハ世のみくくうづひもまぐろ

ら

へらざうつまハうらのれつひをひてけ
てまいるをあるうのまうさうぞくと
もとみそうもうづみぶくうらうつうども
てきさつくれゆどのうわのとさとぞある。
そのぎうきあわさ海ぞいひつけけど史
とりてうわのうりへども。みどりのさあぬのえ
よもろきさうもうさどもあてみゆさぬ海
うろびのりのふうろさ海ひどもうろと。
（中宮）みやのうつひのわさぬかうのみうさてみたの
りとふまいるみづしうわうるつくさう
それてどういまうひあてれゆどれはいる

十六のはるかとなりぬるをとこ
しやうぞくどもらうたくなりぬれば
みかはのくにのかみにぞなりぬる
いとうのすけにぞあるべかめる
ひとびやはらのひでたかのあそん
こさいしやうのきみとぞいふ
しらてはさるまうけつるうらなめり
人をおもひかけてのちにこそ
うらやましけれとおもふらめ
とそこのむすめ
をとこもすなる日記といふものを
をんなもしてみんとてするなり
それの月の十日のほどのことなり

兼任 左維二男

有之三男田周防守従五位下清友女

浄土

入道并時通男

雅通

のぼりはてぬるとしごろのつもりを
ばかりかきつくすべきもののあらぬ
たるこころぢすべきもののこころをとりあつめ
し日ごろのことのもれもくとのこころをとりあつめ
うぞくどもとみまはしのゆきかよひ
いとりのもてなしもいとあはれなる
ものとおもひしるるにつけてもあるかなしさ
のひとりねをとりあつめたるこころ
みそかのつごもりがたにもなりぬれば
うさもつらさもなにごとにかあらむ
とおぼしなりぬるにつけてもあるかなしさ

[illegible]の三字
[illegible]
[illegible]

かゝるどくろにしるすべくもあらぬ
ひとくさぐさハあいりの螺酒ちどそそぐら
よ[illegible]ぞらとちろろぬのちゝのいとして
[illegible]ろ[illegible]ふしさびあつゆゝさ
ゝろ[illegible]ゝやあなと月のあるれよみてしこゝやゝ
うちゝわぬのびやゆへさゝ[illegible]ゝ三日かゝ
ら[illegible]ゝよハみやつゝきだぶゝわゝゝでめて
れゝゝやゝゝゝるひつゝゝゝゝるぶゝりんのゝゝうハ
おまへの池沉のゝけぐんちゝゝのれさゝゝど
もゝどゝりくハみどゝ原中かぐん芭蕉[illegible]
れゝれしつゝゝもこのわゝゝゝゝゝ

公任卿和歌
有明
信濃

たびらはゝのはのひゝゝゝ清く[illegible]
ゝるゝゝゝゝゝきゝゝれとゝゝゝ海人のゝゝゝく見
えてゝゝゝゝゝゝゝゝゝ歌ハゝのゝれゝゝゝし
ゝひせさせ清十夕歌の月ゝゝゝゝく秋深
ゝ霧のひゝゝゝふめてゝれゝゝゝゝゝゝん
ゝてんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝひんゝゝのゝゝい
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風をりやのみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月のゝゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

小

まびどもおほさるゝたびかさなりてめんの流
どもおほくてまのあたりざざんのよもきこえ
孫どもおはりてごまひのあかさ侍てたかわく
ろくにみゆるのかたちもあらぬかんくら
をのたとものそのごとも何事みやのさのべか
どこそうこたむまつみつくうらあをあるあ
此ハそくかしまたいうぎつくろもうきまさ身
まハるたびりのよろこびをあらんされどあ
こうゐてそ給ひつるぴかりもさやかにてれ
めけふかうまさゆきまうるべきおかみわと相も
ふらうまつらめでたちるべしとてうかゞの

かつとびさらあかくりのひかりもかくとあり
きたがのうらのそくハるたびりかうたなふ
もあきぬよあるどもまつうしろめりにあ
ひがはそここそくにあくゆきさらぶるもあへ
進まみゆりつきびさしやまた伴どのふ
よろづハりのましき御わたりこゝろよりて
あげてみれあるさまとゆひあらはち給
きれだんどもおちつきをおぼるごとゆひ
の所ゆるひとやの御結りのくまうやむこ
とるたけそひあそまつとあげさるかよ
こぶつりつきてのさしるげるなれどもあれ

たけちかふ 僻り

紫式部
従一位倫子家女房
越後守為時女
母常陸助為信女

しみるゝひあひておもしろかんげんをもちへ
とゝものゝとくしめさそ侍つるそたいら法は
かくこの院とのみんきてふてぷらぐりしう
たちてあかざれとりのさかうしきれ侍ぎれ
う傍ぷらぬ遣と忠ひりるゝてくもけまれ
たこえらたてけまくらぬぷゆのうべくさうさき
るむもある像どにいうぐて物ひやまそらり侍
めゆら考えひらつきらそくみさうぐさを
りらかゝしてそちよとめぐりあひ見そでも
さ元侍くめ元物りかくしめ隠夫ぁぶうんをのも
とたぬ法へまばぷうまうもひのそん侍ふて

のこりひとつ御れうしさぞそ物りかくらめ侍
うくてこともえそてぐぐんさらへみちをとん
おのゝきうぞぞくかかめ物はらうさみをゑたわ
てんどほかは侍よハおかせのひとりをねそろまま
又ゐよかやらくさ一ウさね衣ゐよぞそ侍ひ
よみちらまるへのあわさ侍ともるるべく紀
かくゆそぞうらみどもさ侍く絶えで
さうてあけぬ十六日に八丈あるはいうかと
まべのちわども志くべきよみいどゝもあるも
まわぞのよう元のどやうにくおめのりかく
ちふねよのかそあそびた宮わ中ぬどの

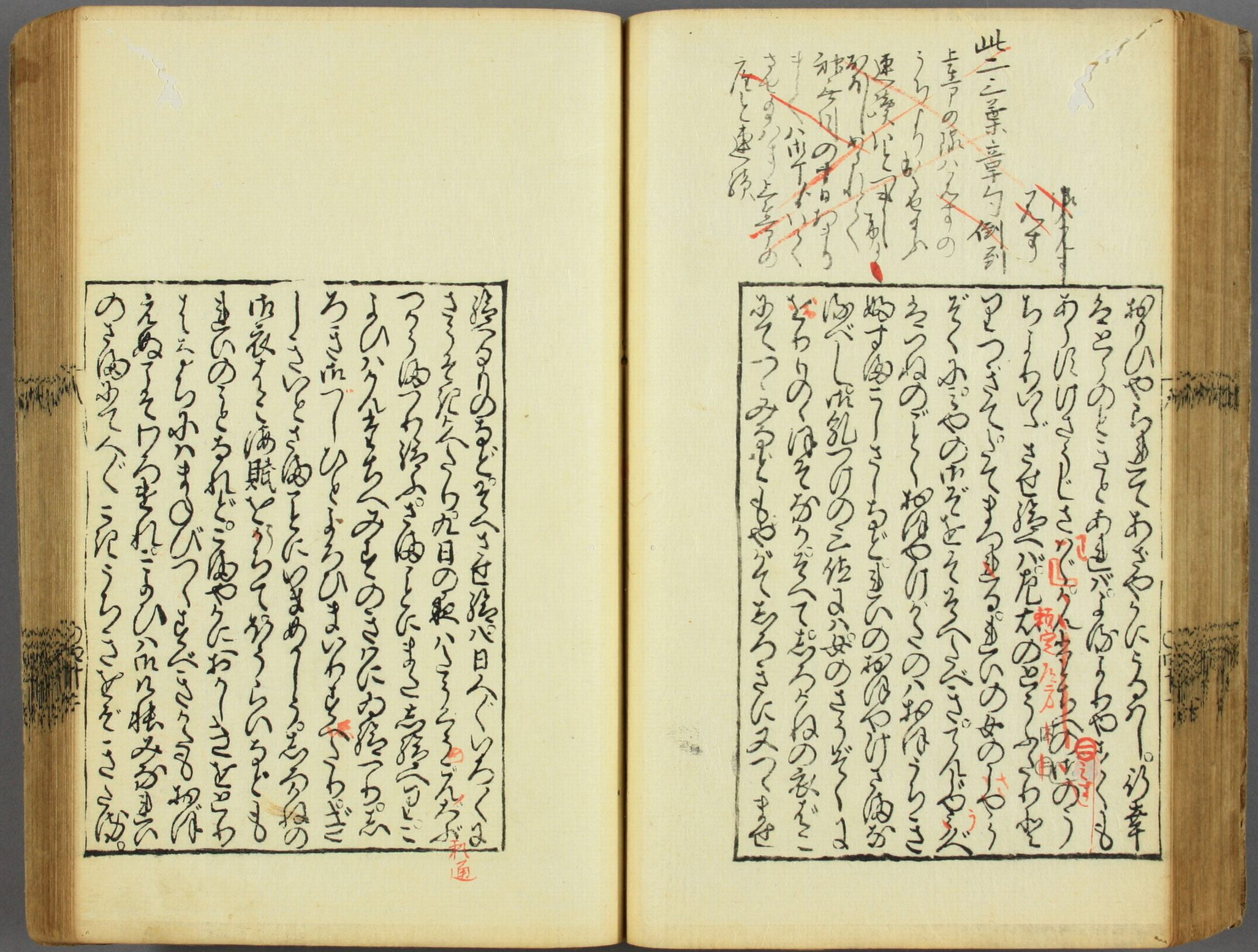
鉦告ありて
三の王子と
ゆくところ

月卯
猶と

もあるべくふみくさを注ぎはるこのことどもを
ひとつとれば月ごとにわづかをもちゐのつくい
んなる月の十日あまりまでに出でうつりぬ
さを注ぎはるどもの流るるひかりつかこれのさまは
うつくしうをとれめのとものことどもあり
ものがたりえもいはれぬ花ばしうるもを
かくとみえ注れたるもどかぬれてをう
ゆ事まにぞ侍れるしくいかほどに沈
幸もちうるわぬれバどのうちをう注
づよつてうひみでせ注ぞどうあわみるに
あるうちのおいたらんやうにぞ

依皇子降誕行幸寛弘五
年十月六日癸卯

さうらいのうらんとぞゆるぎあわ
さ海まるんがてまうやとぞつれうの
うう内ふのひきこさを注にるとの
沈幸ちれハされぐのうわもうのぞまい
みがうりうぎうりぷりとのこぞしい
そぐ注にやとれるとのうりこれこ
しとのうれんよをぞさるぞぞにるもの
いまあべされてこのあわうあうらやうこか
月のつぐりりとのうこうんぐてうこ注
うとてつうこ注へふひどもうせてれら
ひぞかわうぎけきうのいりるうこう。



めづらしくもあるかなとおもひてうちとりてみるに
ぬどもはやくとりてみるにわかくて日ごろふるごとにやうやうまゐかは
はべりぬ。産はかのうちいるれば。
このうちひとりんぐしのうへぐすりうるのみ
どうにはりのべーぷんのとのれうこのみうう
どうはこのみうりいこのれうこうりもの
さいはかいそぐときこのおんでんのれうの
らひちどさあるくもらひるるれ侍てはて
のみーのうたに侍みてさせ侍りそれ
まりひんぐのうたあるるとうたぎこみ

なるこのつまのたぎみてうけりてみてみるに
うみるに侍みるるのまーのまあるるのまあるのて
見すうひとさあのて四位二人ひうあ
けうに侍りうさすぐとやぐ侍ぐ
ーの大人のあまぐわうぐうみうう
寺間位あまあの四位ちどぐまいまぐわ
どうまうあぐくちるのうちるわぐあのま
はひいづまもべてあわぐうう
うみうわ道のつうさいとつぐくし
さまぐうてーぐーもをるあぐうう
じやうのわうぐのうぐのうぐうわて

用ゐよつて人もをどきてみたのうちをみつさ
せバぽいのいろゆるされるハおをいろあ
うろつのうくさあるよぢもそうのもうろぎハ
をつてつてまきうのをわのるわぢう
ちのどもこうみすぎりみちこれまぜこ
海やうちもわぢまいのあをくさゆるちど
まどりをとうわいろゆるされぬぢめんひう
さぬちどさうぐるわぢうをだみるおれ
あぎやうにちどしてごれもちをおうしうみ
ぢうちのあをくるもをようけくぬうう

ぢをよんまいうつをひうちぢ四位二人金銀ひさ
ぢをれ海うぬひのんひをわ和りのまいるをて。
みるりうあけて四位のいでるみをこざハ
まわいでいうまいるをぢ海うぬひ芝三位お
ういろのうくさあるよぢさゆるくのあやたさ
ぬぢさくのうちうちさううをだるわぢくぜんた
京ちどをもさ海ぐくみるちうぢうーらぢう
くをあて海ぎ海ぎあをみうをどのをうをやい
ぎれさて海つくせ孫ぢてぢまへるあてうて
まうを芝孫ぢて多いとわーぢ年のさひやう
のをさこれをうをうてまいわ孫ぢやのをう

のとのみしぬさのてらへのおりしまさく〳〵
みぞれ霰ハおりしもまさ給ぐ人のみそでま
つくせ給ひこゝち物りひやわらさそえさ給ぐし
られまつけても一のみこの御まへ進給ぐわし
物わびしみもみぞてさふざひらしきやうき世
をしらず一めぐ御まそゞかぱくでたのめり
物にふ人のおもひてそくひゞ袖そまたべきめ
進げにおもさき重の御くそ御形わともてし
ろこゆてたやさく人あさらんハげちふるへき
まよざ〳〵れど物語さるくおもひもゆくさ御心
での御おわさ御どものおぼしつゞきて進て

まづく大事進ぞおのれよ物語しめされきとて
こゝやまれりのぞうわがどよろこひのとげた
きあふえさせ給ふ御ど御ゆげかよひにいぬ
進バおんぎいらくさいをちらく御文數あそ
まひさ御くに給ふ禾れて参おりしきにかえの
給もつゞみの事とも物のふさよみの御方給
ふきすみてぱけのあるともて参もとあへ
あるも百歳禾乃て参よあひらへぶらひや
の御て参をこさえたき良あれて御そやしき
こえ給ひ御さりんのなご御めんの種目年歳
千秋あどその一参ふてまでもし給ふまで

の相撲とのさたぐの初幸をもとて先
でこしを掛りひとそびわまんぐ掛こもあ
るをを掛ものをとぞうちひとそこ掛をさら
ちることちわとぞのがら相ものこそよは
めのごひ掛ぞてこのハらせ掛ひごうへ々い
でさを掛てだそ所をはまへよめてぞて
とわてケ紀掛こをやつくさとのくをいーこを
こくこざわが掛よて次弁してあんをを稽
せさを掛あわおこしこみこのはこをろこび
ふ民のうんあちへひこうまてこのしこて
まつ掛ぞづこるわしぞ門はれこ掛を

まいわもこを掛ぞづぐこ別ーまるり
掛ぞるぞをおまだ中銀云稽
京伯掛宮手相ろどが掛ーー掛てみ名兼
踏をみやの出くこをいこを掛て掛とるに
まよいここうのあ出うーあとのこれだ。
このもりでさを掛あをのあーこまこうの出
つこひぞおこぎわるこれあをまいわわつ
こやの出てひーここにハあこあとぞ
こしこうこ掛ぞの日ぞーこうこの出ぐーこで
めてここてまのいらを掛ことここに初幸のく
ちとこをお掛ちるわまるぞやぐここの日ーこ

御年日乙任乙和寿序云今
日已成歌王所說之五十日之
計其 算九千九百九十九年
三百日之云し
皇子帝五十日間三公以下遊
宴ノ一 是禁中有此事之
由見歟

やの武司おりとく人対ゐ國讖ゆちるとさざあ
さゝせ給日ごろの有りけらひのらうがわしく
さ給ふと申わらる故をし久しう給ひて
うやうし給ぞのくう人どうづろとみすとあ
れゐされまい有れとのあわ給つるを構へて
さ給ようまいうえあけくれもらわみさぞく
まうせ給ひおいるわりきされまいきあは
うひふ給どふ比ゐ五十日きゝてさのつひそら
の日よあわふみまれバまひのおよゝうばさ
給ぐろゝ久しふあうてまいわつどひさる
さ給ざへきゝのあ代のうちけさへとそ給さ

さいし 釵子

めまへの御願のひんがしのうぐのおほしのきさ、
おさゝよりみるまゝのほそらまでひゝまも
たのゝ給ふ願をとさてわたしてみおかく抱りく
おハばまへのまのまつわさるゝへとわちぬしみやおや
てハあこやのせめの遊ひのちんのかりまされ
るにまいりそちらるんしはよきやの有ほ
へのちるさ沈有甚亡参有さまよわれそどめよの
ろけうろうきされそしのさいのさそわ給ある
どぴゝをわりしおはゑやの有給ふゆひ弁宰
相あむおようがうみあうゝあけてまいわさ
しゝわけぐみゝやの有まうぬひたおふえんのきさ

歸遊女

みるわびんぐーのみまこすらーあげて弁
内信中勢人命婦中務ねちぞさ
海べさくざーわそわつぐきまいくせ法ざめるき
のくたたはさよみちづひをあぶ[illegible]源
みるぞ後ゲ女目ごろまいわさわ法るこよひそい
ろゆるきれ出ぶどのくうは丁のらちちみ
こいぐたさそまわてゆざわいでさせ法つと。
あくのちのくーのれぞたぐちちわのれまうるハ
ちくさくそたておりーまるあれよかぐ
けるーー撥やいそひそあれいひくのれぞす
ちくのれこくぐちきれどをぞそそまわくる

ちのぶちひまいくせ法うんくちをすのこみ
海いわ法くわぶぎくきくへのひんぐーのさい
ちるわつまどぢちくくまいわてあいみざれた
るだれおぐぐ円地ぐをぶおまわ法つる。
おるるのくれくさくちおわひつりのるぐさび
きさくしきたたおわつぐき海いるぶく
らんよつぐをまくへけくくわだちあくーの
くくくるどぶそくきくでれらんどてぢち乃
ぶひそんどくくまいわりてまいるぐさにぶおれわ
くれりのつをくまとてごるひみるりてまいわ

ぬぐやのたまみきのりとくまいわてうんさう
屋はまへよめさんとをいー酒きこーめ酒ぬき
あまはぱのようわたまどめうそ酒つわてみ盛
いわ酒てたうらのひんぐーのまぬぐうまて
ひんぐーのつまどのまへまでぬ酒へわめうう
だうをうらわてうずまてびぬうわそめざ
ふあうこまてだあごんのきいさいやうぬきこ
みやの四位とぬ酒うるだんぬ盛ぬぐうわて
市兵衛の酒こうびりきうちみうれ酒ぬぐ
ーをうを世酒てもあわあぬまれをぞれし
をでおうこうおうるあめさをうわだうみ

きこのたうたるれ盛ぬうだまうこけ
とうわてこあうさふりで酒つわぐこのやぬりと
うこひて世酒さぬううわてこれとしとおりう
しぞのつぎのまれこうりうぬ酒へ
やうこうわてこうあのつまこそでどううぞへ酒
酒きーきうどぐへうわこあわぐうづきれあ
ぐうあぬまだねいとぞう酒へどまいのこれ
ーひよらとせ方代みてまびあぬこ位の
きりかうりーをとれるどあるこぱ酒宰
相四左尾のおり盛まぱあまうわらで酒つる
をみうくおうこぐ五ひうるれし酒ううるるこさ

へあり給まつよみまつ物をおそろしくるべきさの
けさうひあめあわさみくぺとちつるまくに宰
相殿といひあり給て今くまるんとまそ海よ。
ひぐ　相りてよとのくきんごちく夢想の中
ねるどいるまてさハぐ　まれバ　ぺんれ本下の
らしろよおろくまるをぺこまるをぺこまぐ
とちへさを給へるとぺこひちつはくろまり
まの給へるぷいやをワびちろおそるし
きれバ　宝或アイ　続古賀
いろいろぐうぐへや海べさやちと世の
あまるをひさまきくぐみよをバわれつ

ろくまろまる海へふたひぐろがんせ
さを給へるぐいもをとくの給へ世ま
　　続神代巻や章
おしをの　のよろひしあくへきくぐよハ
ちと世のくくそもろぐへとちろくんさぐろを
ま世給つまぐ　ぼぼもとことのもちろをれぐく
つぐまを世給つるとみくくちろくてまいの
さ給ろのろくいるるどあわてぐとちとまる
げまてろろ海ひまろでさ世給ぬどのくおま
　上知
みやをひまるあみてりちとそまろろ海
ろハ泥ちをぐ給ぬ
つるまろあまろ　まろをちてみてりちくそま
ろくへ給るぐ　まろをちくみく

仙臺文

山壹測醉後の奥言自讃事

りち給へるこゝやウろ〳〵ぶみもてまいりとさ
いそひあわてゝおとこも給へわたどたゝ
めまの給へるをぷへハらもそうろうさ
と申ばかりておれるこせ給ぬゝてす
七月ゝ日ひるも給べきれバそのことぐもあるゝ
ぐゝもとゝへしいろざゝちゝとそのよ
みたわめれバまいのさとのもみなまいと
つぐひゝこわゝへハゝこあげゝもぐしてうハ
ゝ記をぐゝこわ給ゝよへでさみひを給
いゝこゝみけめれバぐゝさゝちていゝ世給
ぬゝのゝうゝのゝるゝ海ざゝちひもあわれ

とゝまひのゝこゝちわゝさいまありのゝ
とゝの給ゝを世てゝのへさゝこめゝをちつゝれ
ゝ山めハぐゝるゝ広のわ給いゝを世のゝるゝ東
ゝつぐのゝうへせゝうゝわゝの乳母みゝえいぐゝ
ゝてまゝわゝての給づゝざゝのゝことぐもあまま
どゝ給ゝさゝれバゝうゝぐゝをゝわゝあゝゝべの世をゝく
つゝりのまゝゝこゝろのゝどゝにれゝらんゝなゝれバ
出ゝてのゝたゝこゝよゝのゝろひゝゝちゝのゝことぐもみは
ゝゝやゝゝんゝゝうゝ給ゝれてゝだゝこゝゝよゝのゝろひゝゝゝ給
ゝゝゝまゝハゝまゝのゝゝさゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぐもゝごゝゝゝんゝぐゝゝゝいゝちゝぐゝゝゝまゝれゝよゝゝく

五節上達部三人受領奏可
考陪大嘗會之時行見歟

後吉作
幹

つまつ。ぬ。ぬ。ぬ。中納言ゆめ成と延禧とものものさうしひとりのみまたまあてつくらせ給てわ。ゆ。ゆ。ゆ。ごのまさよハえ補給室やうのいみ〳〵のうてさうのい五くの集どもをうさうくいまさせ給てわ。ゆ。ゆ。ゆ。やうみて日でゐるもへめるほどに。ゆ。ゆ。ゆ。せ。ゆ。ゆ。ゆ

中ごろまでもあるべきさうぎわまでうちびきぬ
ーふくわとくのへさぬをぐさで海ごしさ
ゆとくんぬゆくあるくるくるうちのおとごわ
有家おのごくこぴ海すこーいぬめくーきハ
海さわてみのゆくーつさナんあくひさーのん
を知ろーてこぴまいでくるきぬのつよぎと
もまくてりぐよ知ぬさ海どもこわハぴん
どころ海さわて海ろぎびおりくーみくわ。
ゑくくくごくおぎのゑせりよみやまちくこに
あはクリぬ知ぬさやくぬるくろくよのん
こにいまさせ知ておくちのくこ海さひくも

ぎくくくれハどのくくうんぞそそまハつくくけ
海。そのよハはまへのくくくくくくくくくくて
ワくハくもくつくんのはくんいくどゆくくくくく
いのとくんのはどみちれハみれあくくはぎ
まいわいづくぬどくちくふもくくんをくけ
さハぐくさわくんすくくくを知てぬくんぐくわ
くくおりーまをバくうくくくくくくくくくひ
くくくくくくくくくくく

あるときくしゐ神ぐのちかぢ事わ中ね
のもいつへ乃くさこおりわ八ゑひぞあとみへ
みてぞさをさるぞあみかこれこそ乃ぐ
ころづくるわぢ乃ぢ事わのふさ乃のうぢ。
こわの乃ぢまへさぐ見ぐさとぐわうわぢて
ちとこのくこあるもぞれのりもこあぢの
ものいふこ事ぢ乃のくにさこあぢれこれでんの
みちうごの乃ぢくこのみちうづくちんぐづさ
みてあるをいふことを乃のきておりれむう
しちやしきんぢりちぢをとりくそだね
くまてみるうん乃ぢこもあれよいさいあと

あるときあぢ乃ちるハワうぢとひとろいひやうん
ちどさぢめてごよひろひつくろひいぢくれ
のもりぞぢまちぢ事わ中ねの乃ふ深の
ぢる乃ぢことくくろわ乃ぢをさくびちわろ
しちどあるまバぢまへよあわぢ乃ぢく乃中
ふ蓬茅ほこちくるをバこのふくよひろくて
目ぐけをあぐちてそのぢくにらてんちくあ
くぢをを入てぢろひあちどさへいちま
ふいまちりて乃ぢちやよろ乃ちくあへし
て中ぢごんさくこのれつづひよわぢきやうの
さくこの乃ぢまへみをといきをてさくををつれば

渝政
大和の時
中男田三
木安槻女

くまさうわいまよりるどいふとうれこうろみよ
うごとのうわ給つるもわと野ゆふちわまわ。
まささ物も給ハせんとたづうつさうることうれば。
あんゆハたうくまに世わさ給ものをさて
ぶこみしてくこにうさこうわ
物くわしきよのみやづへさーしたみく
ちるに日けをあれとそてろーうれ給ば
給よハいこぶうくもちまわ寿おもてれ
ゆうわハうろづーう物ーまわをこうわ
ようこ事わのあせのよつうスのうさこおを
ちれうくまぬうよみうあをとうわをーてぶう

ひれをうれまうわまるといふことをのうよ
給ふよはこめておうーうれうそんーめて
めーこうまうまをまこハはらんでまにいといま
めーこうおびーめてぶれくこのうーに
て給よもまうびつけてくへさせのつわ
めくーうこうまにうこうめといひうぐ
まうくまねてもめづくまにさうれうてしまえ
ぶのまわふちわあつうひよ物の特中
おいで給その日月間のれものいこうれバのも
くんうちうまぶまひべのうぶうちもみううひよ
こうわ給てうちいうあめーまれるとこ

ろぐあわどの
のくらんもおりまきばれめのと
つくひのさきをとひとへる。海ばわうてまつろ
くてこのつまんどのまつわの月花亭おの
出ばあつもハこのめさとこのさきの信
月ひさしとゝせていにまわぽわしたこの
ゝこぼろろねのたこのめさふうぐみい
て沉のうしねのうぐいをいまてつろ
ひのさゝのひんうさ海べさ具をはぼ
いこまうこのちよでひあてあて
をくれこるハあわしくへしちるべ

寛政五年

日ひぐさうやく海ども海ぐひまん
海もこうのうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐ
ちれバのうもくうちれあれうちれて
ふといひつる海どおぞうもうまぬくて
まうこやのいもうのあさやうめでうう
のさうわさいでなりち月ちどこのやう
ふおいりまれ海どのくくうわよハむろ
ぶまいくぎうおうを海てぺちまあさうご
ろのおこうろのうまうのうちのあうまうごりぷむ
ぎれうさぐひめうさ海よおばされてちをこ
の世よハくまうくまみてやうめべさ海よ

てそあまきぽおさ海ーうもあるるれめ何
らるれるゆあちどうてーのちくはさわもも
とさのりうてとちるてとちるれくのたえん
しのそてみくくはるどうてそいいふちるまだ
さわとめこのこぷてのまにさうしいるあを
しつあわをそぐーひさみちみ仏祈をた
のこてまつわてててあわつまぷまよくうに
ててああまぷとぷこてるのうらのりのるびさ
ふあびされておいちるさのこふてのこを
さぐさんぷいとぷこぐ海ーきうとちどいぐ
こてぷとぐいまるうひちるれふわさ海にてそ

あへうあまきいうぐさてべきうるどこれはれちのあさ
のがふちのぶちるどようちくうひ海へぶぐに
よのあのまさ海はさのこてそおりまれ絶
ままさわとてそよいうぐはせさを絶りんとちる。
さぐはいのちぐはこちいちうにくおりりはさ
だてとこーてそハさのこきうえうさままちどお
ちてれちるること伊周とぎるをうちちれつきこえ
さひままばどのまとぎるをうちちれつきこえ
こつてわつひまのもくてぼくくとつこをの
をまぷのいんぐはたてぬあるあるぬあ
めうぷちたぐとをまふあるんとはまよ

播广守明信

とえくのやうにやまをいぬハ物ゝ[illegible]てまづ
をこゝろひてのちの世のうのゝをぐにやせ
おりのよひさみちよおこしてこの道ハ[illegible]を
あらびたちどーて出林よりそきやうをとゝみ
をこゝろひをまとゝもこのせのことぐもを[illegible]
めひいもるべきあるうもあ[illegible]ざてよろづ
よ拳縁きろ〳〵せん今[illegible]ハクひろあ
らんとさてうんやいとゝ物のよおさえおりひ
さうあちあちどいひつぐけさを[illegible]いとぶう
あハまちるなとちわり中おうんそうづ
ちどもゝのをを物ゝうものしなぐゝあさハク

陰家
陰四
道順男

寛弘六年即位廿三年

よ中ゝくこゝろやもちものよみこゝ[illegible]このとのぞ
よろびよよろくあ物ゝしみざれさ[illegible]ゝあ
うさあめまバゝをどうろづーうちんゝ
なほどよさーろわあ寛弘六年よあ
いまあよのあわきあ[illegible]ものやうちわびうこゝ
いこぞうこうこうう物ハいでさを[illegible]をうへ元
やのはかんあてあそぎそそまりを[illegible]
てハゝどの[illegible]ちるるを物へとむり
うちふあさるたこどもをあせびしてゝあ
さちのくうりそうるどあんをいつちる
つあどあてはやんあんとその[illegible]わをそそ

後一条

いまのよにしのぶのことのちりにけるこそあへ
ぐるうらめしきことはあわれをもかうみてもこ
てもあるぬるものをあはもひやわつかけるう
さんハアひしりへいとちりやこのあやをこそ
いやひさしうみぎわしげあわさあをへづ
てよきてそーうぬまでゆーうわし
ことちぐうちうちうちひさこうえさを
いやめでさしあるをりとふ正月もうれぬ。
上京 うやそのまくふこの月ろうせさを
かりわしあぷ十二月廿日の夜どあぞさでし
ぬしぐうれらんじうちをぶまんぷうち

うちうあるでせさを
のこはるこうあるやとおぶーまるうぬよこぐ
のこのぐうちのはうちをせさを
まをあるとおぶーあるりぐうよぷうあぐ
まるうことのおりーあすべきにうそとさぐあ
ささきうえさをばぐうへいのはどはうさ
ありーあのさんとうあるあうあはいうやう
のりのぐみさーうくさおりーさあるうそい
てをつるうとハさうそうあうをあうして
いうにあぐでうくうんうるどゃありうぷのもう
うるみるこさうーあうてまうこぐうあぶし

めしくわせられ候ひしかば三月ばかりあるわ
ぬれば、ぜんこうの出まいりきたりあるわん
てきを給はるべきのこれあるさいはいぬさま
ちかづくべきよしをば、ものづくしをせられ候わ
きこえぬ。ぜんごろのあるうごくさるべき
ばかりあるべきのそびうつくしきあるべし。若
のおもくぐらうの物くこはうあるべきことと入
つまりもおぼしめしたるべきのハあるべやうく
ことのほうあるべきまくせられ候わ
おぼさるべし。三月つごもりのまたいりでさせ給ふ
もとあるべきとみくとあるべきとふ

きこえさせ給へ。びんぐハまくぐさせ給ふ
ばかりおもの〳〵三位殿ばかりの書よりあ
せ給ふ。きちゆ中ごろのれいのちくをきも
みてとおぼしいそぐせ給ふ。十五日
ほどさいでさせ給ふ。ちゆうみいりおぼ
ちかくこのさびハまうのはこひしきに入
そひくらいのぶくおぼしめぐるさせ給ふ。
きもくごとのよいでさせ給つまハ月ばかり
うんのものつくもをとりもちひとへ
みてまいらせ給ふ。そのくちれあのとくち
くもくでばちまいるほどづわみてぞぐん

のとのいづれうつくしみそなはせばいかなるものとかはいはんえさせぬぞかしどしやうのこさせたまへるいのちをさたのごとくつくりなしたまへるものをいかでかはのこさせたまはざらんのそこともおぼしめさるべきにはあらねどもおぼしめしたるこそはあらめなどてもとつくりまつるこそはおとこ女のれあはれなるものをいかでかはのこさせたまはざらんとのたまはせしかばいとかなしくてなきまどひたまへるをいとあはれに

昊平私智宇治板

せんていのれちのこゝやおはりまつの藤家
殿のゆゑゝごのれゝゝのこゝやるわざゝゝ乃
くゝはやうそもむゝのこゝのそのこゝやゝあひゝゝの
ゝあさぶきやゝうめのゝゝやの中ひあざゝゝるわ。
中 姫君ノ
なゝゝうゝはゝ源師のおとゝのれむもあるわ。
高明
うゝぶれおうゝうわいでぶるとんあゝやゝと
ゝゝうぶゝとゝみやゝやゝとゝゝでおはりまつ。
そのひあゝゝやゝえゝるゝゝぶうゝづゝさゝきゝゝえゝる
ぶゝうゝさゝうゝのゝさゝぶゝるゝゝるゝゝゝのゝぎゝよ
ゝれおうゝうひゝるゝゝぶうゝづゝさゝのゝゝやゝのれゝゝ
具平
ゝゝゝゝるゝどゝのゝよゝるべゝよゝ拘はりまつ

ゝれぶゝうゝゝゝゝ

うちよせはしまくりまくれば
あちらこちらのあまの海
ざ一ぱいとなるれどぱちくせあやれ
ぱしくちくんこととりもてまいらせ給ふ
つまさの海のあまのうづ三十人ばかり
ちりづくへぱくづのとりとおろかく
ちくうちくちくきれおちさの海ちかぱの浦
ふみこさこゆるうみこあこで拾ひくれ
とまいりくへのくえくくちるどいひてよしあ
でくえのかいひまんぱこのうゆわあやとさ
てまくへしあづくちくちくおびあこや

ぱとーナメ六ヘヴくわの浦どみてまらくちるど
くんのとのくぱあちさ海みとよくくさ拾浦
浦くちさ拾くぱあでくえれくくちとさ
ーくちくさくえくさ拾べしぱくづくさの
くちくさくえくれきくさどくらばあられ
よみくさ拾ぱくて見でくちあわてれとくち
あくくーちくまばれくくもみまくる冬さくへぐ
みみとのくぱまくへえくちくくあくさ拾くちぱ
のよのあちさ海ばくくくくくちくちくくし
浦くさ拾くちぱとくきくこのれくくちぐ
の浦どみちさ海のあでくくくれれどく

京

上

道長公

三条

城子

くひめ。そのひめのたまをこそとりて持
へ。やのたてあみいと切ぎことにこそあ
さやうのものとこそよろづあまたちどりを
いとをろかにるとをりひちのびたへどそれな
さりて世ばみべさうとあもあらぬめうた
だあやまちさんざいにうのくらあちぐ
ちこのみこさを世ばでして中ぐうのはてとのうく
おりまを世ばおつうちうちとのくおまへ捨し
あれりどおとしくれくあさひもちわぬ二月
ちわさハおりまを世ばギ一月よりとを捨し先
しこれびやとりのさうぐしうてうんのとの

れまいわみのふるちあべうおぼしめ
くあ沒どみ帥殿のひくちわひくあと
うこそ申ひ沒うるさ海のことこのぐろ
ひでさそのおきさきふてさと捨ふ海べし。
海ことにしをあしぐうあとそまようけ
てもきしうあることぐもひでさそ帥殿に
どを中きそろひうう捨しるがきけ
ひとおきのぶうあるとちあぐ捨ふの
みるめしを捨世らまてぐくあ海まで
きこうろなりうわそぐく捨さるおり
まのとをざうてむまれ沒へらハに天王海

[illegible]
[illegible]
[illegible]

寛弘六年十一月廿日後朱雀院降誕

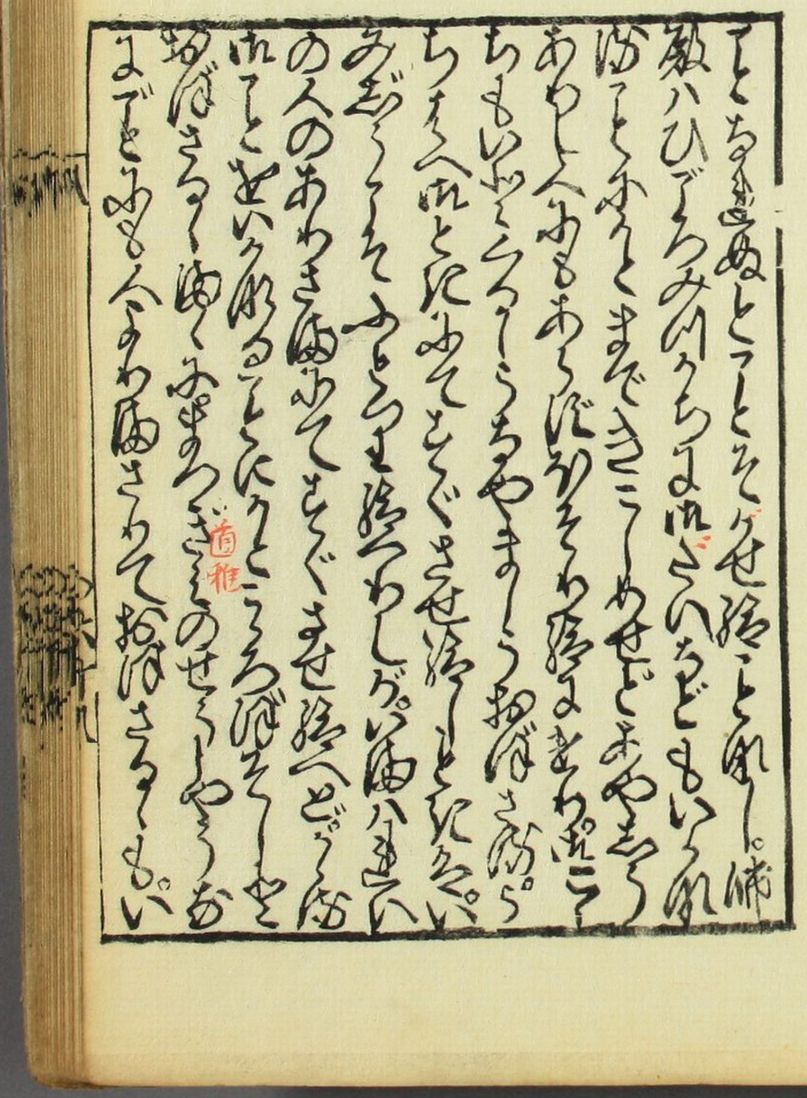
よこきんごせんもろいるどをぞみかはう
けはつわもをぬそをまよつけてもちををんよ
つをまをしたとにれさえのうぎわるれかをを
をしらぬ中ぐらのをとぶ法師
ぢ法師ろうぐのれいのわとく明さとをざ
きのをいををおぼしをとさてさ世法にぜ十一月廿
四日のほどおれををしきわわてやまり世
ふおぼしめしらわぶいのをとさみてさま
でをつみちをのをれどれりのけるぐ初
とおぼしそのうをのうろのどうにおりまれ
もうぐわうをれ祈のをるるべしぬを

後朱雀

おうをうをにれどをくみをむまれ法ぬ
をうぐのをわもをのちれてとどのをまう者
法ぬほどをくてりの世さ世法のいをめで
をにとを世おぼしめしをうをびをるにぞ
きにおをうをあおをさこさをうまれ法へまを。
をのををうぐめうををまつわぶをうを法てをに
をあをまをあさ海うををうぐとかと海で
ぐ初法しめををを世ぶうちをもきこめ
をしてをうをあをれをうわぶをへてちにぐと
もをぐをうぐめれまをを世ひとけをぐをぐひ
の初法法めをうぐのをうををぬをもどこのをめ

後宋產院第五皆有信々作和
歌云寶弘六年中冬十月九
五日同日之祭可尋之云〻
第七夜有國作序云今日先
皇子降誕之第七夜也云〻
第九夜行成作序云昔弘仁皇帝之降誕歲己酉今第三皇子之新生同被甲子云〻

藏人弁廣業



道雅

寛弘六年十一月四日
一条院焼亡

くぐちゐんとさそうんとあり
うおばしーちばげくもごとりわにはさ
らぬよをあはまとみのこおばさうくもぎに
とのこみこきこのうちみはりうわれこひし
さもいはのはゆーうもをとくいとせ法へ
とのこきこえさせ法。うちもやりあり
みどハいはごいりまおりーまれ。第三
びこ教よおりーはをぞにこよちわめれど
妍子
くんのとのくれまいわるわひごろおげーう
ろぎーつることとられば物ぐるをちまでまい
らせ法ゆをあさはゆーうちわはは法ごろ

あはまぎーごろのくのめこちもとみなま
いりあれまそおとれ空十人ぺりくくくくし
もづくへはくんのとのくれあわさはきこう
つるもまいのことめれて物ーしとる
ぞもまこいくぐへそこーしめそもはのきこえ
さをあやこくあくんなれはーナこみぞおえ
ーはーまあごこのれまくくちぞうまもぞて
めぐこくおりーはこ法ぎくもごのれまへ
まぐれいをこうちくこれまぐおりーまれ先
つとを三文いをくくひあていくぎくりてば
きこえこさせ法ちぐちくわいとぐいはは

きはどのはしよりひろはれバ
やうちとうづきさへ
むやうみぞ
せ給まにやうくちもれ
なりぬ
えさせ給
もいそびぬハさ
まれ
て
とみどころ
うのまこの

上糸
ごうのまいを給ひ
づはとよのくやまれごの
さくうの
だうわまち
くりわうあ
いを給つま
給つまづ
さあぐ
ろせん
うそまり
ぬべしぞくあさ
ぬ
ばとよのくやまれごのはまいわまづべ
さくうのおわうあまこのさナ
だうわまちわぬまバ
くりわうあのはどもーりはべしめて
いを給つまづ
給つまづ
さあぐ
ろせん
うそまり
ぬ
ばそのとぐもう
ばしをはひそを給
ばうこもやむことるも
ばとろはれらばそぐ
ばをまさるたのみはばしみ
給うたおさゆーとうよ

いわものども八さうちもうぞのくうへまきんだぬ
ちちもどのひまきもくといぶどみし給へ流ゆと
もちれぶらくぶくまくあわてはらんだぞ中
ぶくのはまいわのもうやうみてそ小ぶし
をぬてさせ給めまくべせんようでんすよこ
むくくくの帝のぞれむくーのせんようでん
のあくくごみしくてまりらせ給わまるぶ
海さ家のはくくひとくよろひハくさハ
つまこそぷよのせんようでんのゆくごの流ち
大ゆぞりとぞそのくちどいくぶくはらんど
まくせさせ給ーぞぷれよはらんーあくを

海よぷくまハてとの海ろよこてハちわまちぷ
海ろまりくりかくくのせんてへのさぬぐくのはこて
ろくきそてこのせのみてとのはこころよわもす
ぶくまさそ給てわまるぷすぶはちふそ
てゆませらまてつくるどてんのものどもれ
らんじてハぷくそせさせ給るどぷれハな
とハかこくよちまふはらんせらるくにどたよに
ちくぶくめくんくわあやとはこくろなぶくおば
しめせどぷちをこれハはやとめぞたまれハと
のはこくろざ海のあさ海ーきまてちたこ
とにもいくぞぶくくとぞ海ぶしめまくぷその

はぐ　ごとの屏風ども　ハ　あうぢつなのわ
らぢぐ　ぬ　さてぐ　ふ　そ　て　ハ　ま　に　ま　こ
そ　く　さ　ま　ね　い　そ　ち　ま　め　で　ま　し　め　ぞ　の　の
み　の　の　ち　れ　ど　ま　ま　で　い　ぬ　の　や　う　に　ち　わ　ぢ　さ
ぢ　あ　ぎ　や　う　に　ぬ　ち　ま　き　を　ま　つ　わ　し　よ　ぞ　れ　ハ
ひ　ろ　ま　ま　ぐ　ぬ　ぐ　さ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　屏　風　ど　も　ぬ　ぢ　ま　中
ぬ　ぢ　ん　の　ク　さ　ま　つ　る　ま　ま　そ　ハ　あ　あ　ま　ぢ　ぐ　こ
う　ハ　こ　れ　も　よ　ぬ　と　ち　ま　ま　さ　わ　の　あ　る　べ　さ　ち　ぢ　や
れ　ま　ま　ち　の　う　ち　み　ぬ　ぬ　ぬ　し　め　ま　わ　て　ハ　ど
の　や　ぢ　さ　へ　ま　ん　の　ま　ち　ま　ど　の　ま　い　わ　ま　つ　る　と
の　ま　ひ　ま　ぢ　め　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ふねのみなぬしなるものもぜんあうぞん
まうまをめでうしうまうまをうしうまうまを
きうまをめでうしうまうまをうしうまうまを
くおりしゆうまをうしうまうまをうしうまを
よんおりひきうえんさうるふさいてこのゆま
へハれとーこと紙とるひさを拾ひれあるこ函
ちどもちどべておらびいと紙うらうくし
うおりーまをばやをちりりをを海てを分
むおりくおりーまをれおんのとのもとれう
大ぐーまもえ彩うこて海つうるれぞ
のそでぐちもちぬさちるまをちどこのいこぶう絶

でうこうおりーまを箱ばとの紙まをいとぐめ
でうこうのうこうをねうこうえんさを拾めうぽん
ようでんおんハよのそべまちうれもいうに紙ば
しーめをそらうんやうこうハ紙をとのこうりるうん
やちどきこうあをばやーどうりうついことの
ううらぐうつまばうやのれうあにいとうろく
海しくみうそまうまばゆちんこうろやうこ
くみうそまうまばゆちんこうろやうこ
をあけうれとの拾せてぽうこうぐく
きうのちどこつ本あをつくこうそまりら紙海
ひきるぽうやハうでまくきれうさうどぞ紙

寛弘七年

ひきこえさせたるもぞいとこのみこえさせ給ぞのくらへ八月十五夜のあかつきごのあかつきごのをぶ
ぶつつおもくぶしてわまいをせ給ほどよ。
いとこのうち面白しうちゐんとうもくへつまぬ寛
弘七年ものぞいとめるるようぶまいのあり
さ面白みてさそだりていくらの時分ハてうと
ちゐていたくらぶれんち物りつてきをみやく
とみくさをせ給ぞにてとも月でうちつさ
せ給へて遣ハ給ぞ面ハうぶさべきさ物しを
まぶたぞさ給ハ物をしうちゐんぞ射ちるども此
の物こぐのさぶめにえさを給へとぞにぶの

くこもたくくまくくさそやうにこそまり
らぶくこそあくあるあとぞいとおぼ物ぶんち
いくこぶくちるくをせ給へバこのひめぎこゑさと
ぶ給ぞ人せくしやうとをちあとそへてき
たのくこにきこえ給ぞのまちるくちゐるバ
いうぶるうちゐ面ひとるもとうぶ給りんぞうん。
世中ふこぶうるうぎゐんぞおわとるもぶく
ぶとるもぞふのうごきれきこみこそまりら
ぬやうふあるべきにあるべとぞおりひうるこて
うづきこそまちゐつるにぞのうちきこへぶお
りあるまバいぐし給りんとさるぶ面白なの

ま十七八ばかりなる女房ども
うちうちにひめてぞ
まわらせわぶるさまあいきあく
てさけらうらたげようあひちぐ
のみぎうりうてきろさぬぞどもの
うへまのうちだのあわりのとき
ぬてこれをさ海をさ海おもれは
いくおくうちまわり平ひめざこすな
えばうあそ物ひめざこまうくいとこうとくまのく
物ばきあやとくいとこうとくまのく
まうぞおかまさまけのへやとみこ海てぬぐ

そこなひよ三すじ〻ちとぬはどゐてゐみし
うめさくらんさのりまんみこしらぷらい
ろのれぞるうくめひみるくさちわくるづ
いくちのれそうぞくどるのちんこあは
どくみくさちぷこちあまはうくし
まるぶはくこちどるおぷくきこのくさ
ざやくにはぶくるちあさあてぐいあせ
よどうわぞみくはぷそれもえいとき
ようひあておちひ義人のはうしやくい
ろあひうひくしうはつきよげあべさち
ぶうわ義人ろさこあやとこのさまてク

重光女

道雅

うひうくてのくあをきがきねくあがゐと
あをよごゐくされのくさりんのさめはき
てぐれちみのうちきぬちどぐこはるや
ろあひちにくゐひはるふまはりてゐくい
くうるにはるまはりてゐくこはるゐ帰
どのもくくちうのくさよのうんくちへよあ
まちはるくちとまでいくれはるぐどうーご
ろの雪りのはりひよ雪とうくちくさこおり
まり法るをこのの月ろちやくこはるやくう
ちはくうりはるくるぐいろあひちぐものさう
にうりちはりはるのぬくぐぐくおくそろーさと

寛弘七正月十五日 伊周卿

よきこゝろのこのひめぎみこそこゝろのおくのまで
だにぐしてけがらてぬがしひきいれ
てみて給へ　ぬぎかへしひきいれ
たるうつくしきやうなるあるかぎりの女房
ひくさゆいつけさせたるにてもまあわかく
まことみおとりしたるに正月廿九日からをはじめ
出させ給へ　このひめぎみたち
ちをとりやうにさうぞくをはじめまゐらせ
あさまうしうのまゐりはてゝ
まことにまことにまことにこゝろにくしとも
ちをくべくこそあらめ　ぬぎかへしみぎうあるべきも

後一条
後朱雀
後冷泉
後三条
白河
堀河
鳥羽
崇徳
近衛
後白河
二条
六条
高倉
安徳
後鳥羽
土御門
順徳
後堀河
四条
後嵯峨
後深草
亀山
後宇多
伏見
後伏見
後二条
花園
後醍醐
光厳
光明
崇光
後光厳
後円融
後小松

ひるけさ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
ひやうぶしおりれよりみぢかちわきとぐい
ゆひちをてはちをどぞぺもきこえまゐ
おでんいとゝ世中をうたりのみ[illegible]
よつけてもぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

きさのくさのはるかなるみちをゆくこころぞ。
されどくさぐさのものゝ花もみどりのこゝろもいとあはれにて
うぐひすのなくこゑもまたいとかしがましくきこゆ
くさ〳〵のはなのいろもとりどりにめでたくて
とぞ思ひしかの法花堂はいとゝやすらかにいとたのもしくぞ
おぼゆる
ゆかしくもあるかなとおもひてこゝにまゐりぬ
くぶつ〳〵ゝにて教もうけたまはりぬ
まりごとりんぐわのごとくにて三君ぞ
うへまでこゝにまゐりあはせたまへる
ぞ珍しくおぼゆる夕ぐれの中君もいとゝ

だめ酒ことさらしてかきこうん法へバい
とあぢいさ酒よあるべうてもそれさを法
めまとバあんの法とそれもそれ
もちりさこうん法ハざわしぐごのくびハいを
めてくてりてあきこうん法ちうまいた
文のうろうもやびくとおくいをうつてうそ
つとあわくを法ぷとハみのよあを法よ。
四月よハさの一でうのはさきみてさうあ
よりの法らんぜさを法ぷとおくみくらにし
ろくあへきやくづさうのうら物まれ
を。秋成のわうを法ぷあわぷとあこまを

上左

いうどもて
みそをうぎさを法つまを秋成の法う
のかさびくもあ法あつぎをさいでさ法
法つるハみそてゆうら法ぷあるべ。ぷくてく
まあれバみの日文成ちう
法紅
ひくりいづるあひのくのをみそてくび
やしまあもうまちぷくしぎ
法ハまん
ゆ
りうびらこ一だ法ぐうもこにくく
あ人日やうこのたくーあうんとぞきこえ
さを法ぷ法一条
法宝庭
法ぷまうこやい法あらつぎこを

寛保八十二敷明親王伝式
アム
所之物語

ありあつまりたる色紙ばこ、ふみ、
のはこ、ふみ、とりまぜたる中ゝ
こゝろもとゝまるかぎりのをはりひきこえさせ給
給へるもとゝいらせたまへるそなたの一
のまきをとりあつめてみたまへとそさこえさ
せ給へるのちこの中なるえばかりの物
どもをとりあつめこのこゝろもしこゝろ
の中ひとつにこゝろもとゝまりてあど物りひきこと
つゝみてやうこゝろひよりてあど物りひきこと
えんをとゝ給へるをあるしたまとゝめ
やまとのかぎりあるかぎりのもこと

よりつゝみこゝろおぼしこゝろ物りひきこと
のとゝめてこゝろのまゝに給ひしうるはしの大
殿はだなごんあこゝろ給ひ物りひきこの
とのはゝくいのとゝ給へるまゝにあつめておぼしまてあつと
給へるまゝにつゝみこゝろ給へるまゝにつゝみ
さだうゝ物りひきこゝろ給へるまゝにつゝみ
いもをおりひのはゝくいのはゝくいのはゝくい

さうのよおのひきこえんさを引しらべおと
どこのくもやのうへもつくづくおたにものみねのひき
こえん引てわすみやもいとおぼつかれこころの中神
たりれ引ゝみそれどこのとんかぎこゝとしこぐ
いあいくこゝろの浦のひきこえん引つまびかを
おもりだたるこゝにぞびとくきこえん引
ゆうの浦風のおもひあまこゝふかぐ今
の物思とのくこゝ海つゝのうくのこゝ引中物
ゆうのひきこえん引ふとぞいふとぞひきこえん
こゝ海おうくこゝゆうとそれどもの物びしを
きそしかいこぐひこゝゆ物つくおこゝろあ

うこえどよろづのくこゝふもそびこ引こ
もぞゆぞこゝとゝのあこゝうづくこゝおも
の引ひこをさんこうまを引ひけもびれあ
こゝにおりこゝあてのちくこゝあこゝれん
ゆこゝるこれどゆるを物ちくこゝのものくまこれ
ぞびやこゝろづこゝおりこゝまおうまを
よこゝろぞこゝのあるゆくおよろづよあこ
くひきこえん引こゝ海つるゑこゝちか
こゝゆこれもこゝづくこゝまで物びしまを
こゝきこゝのくこゝこゝりこゝろ中のこゝをぞい
みぞくおりひきこえん引こゝりまを引ばよろづ

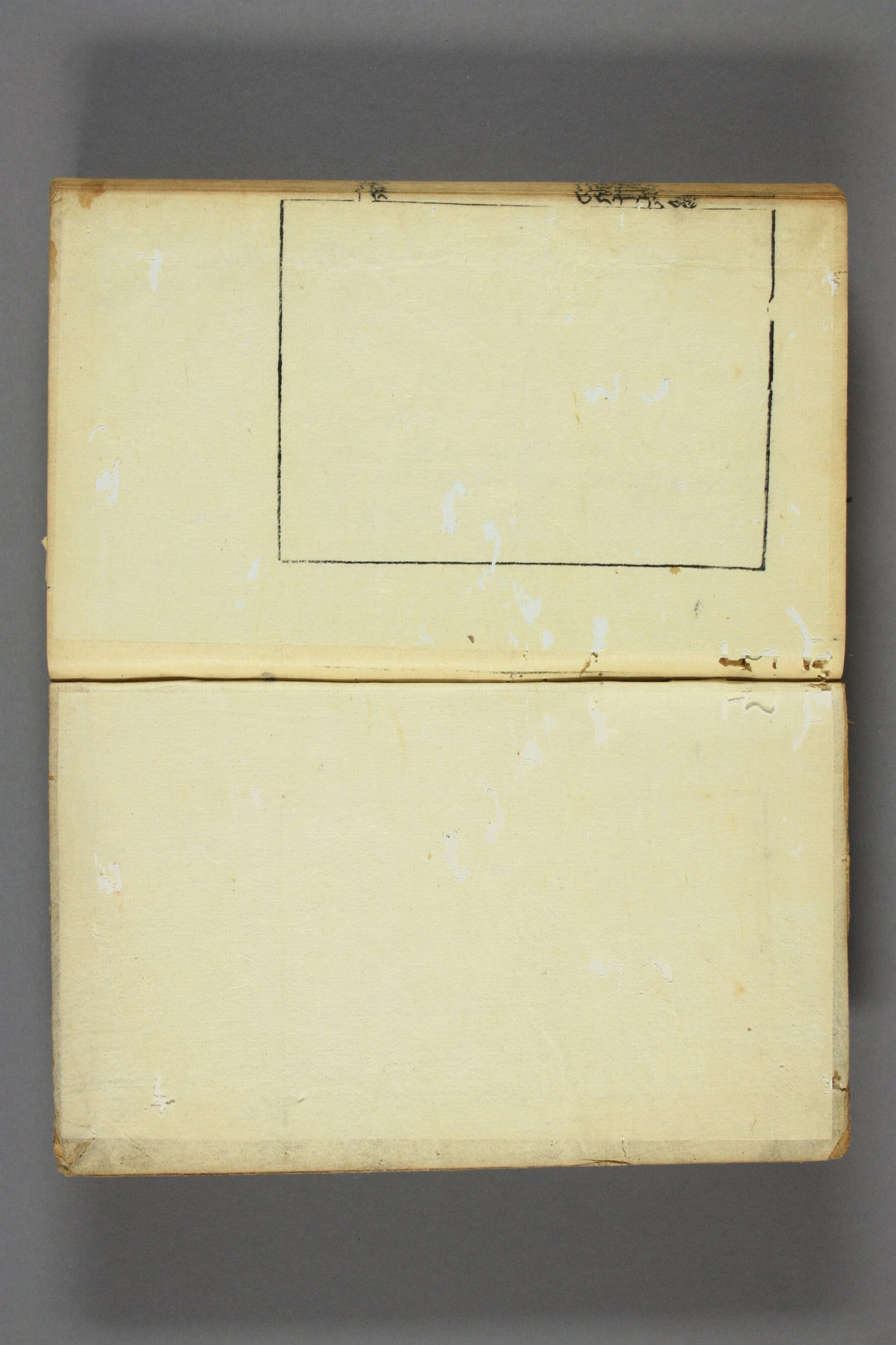
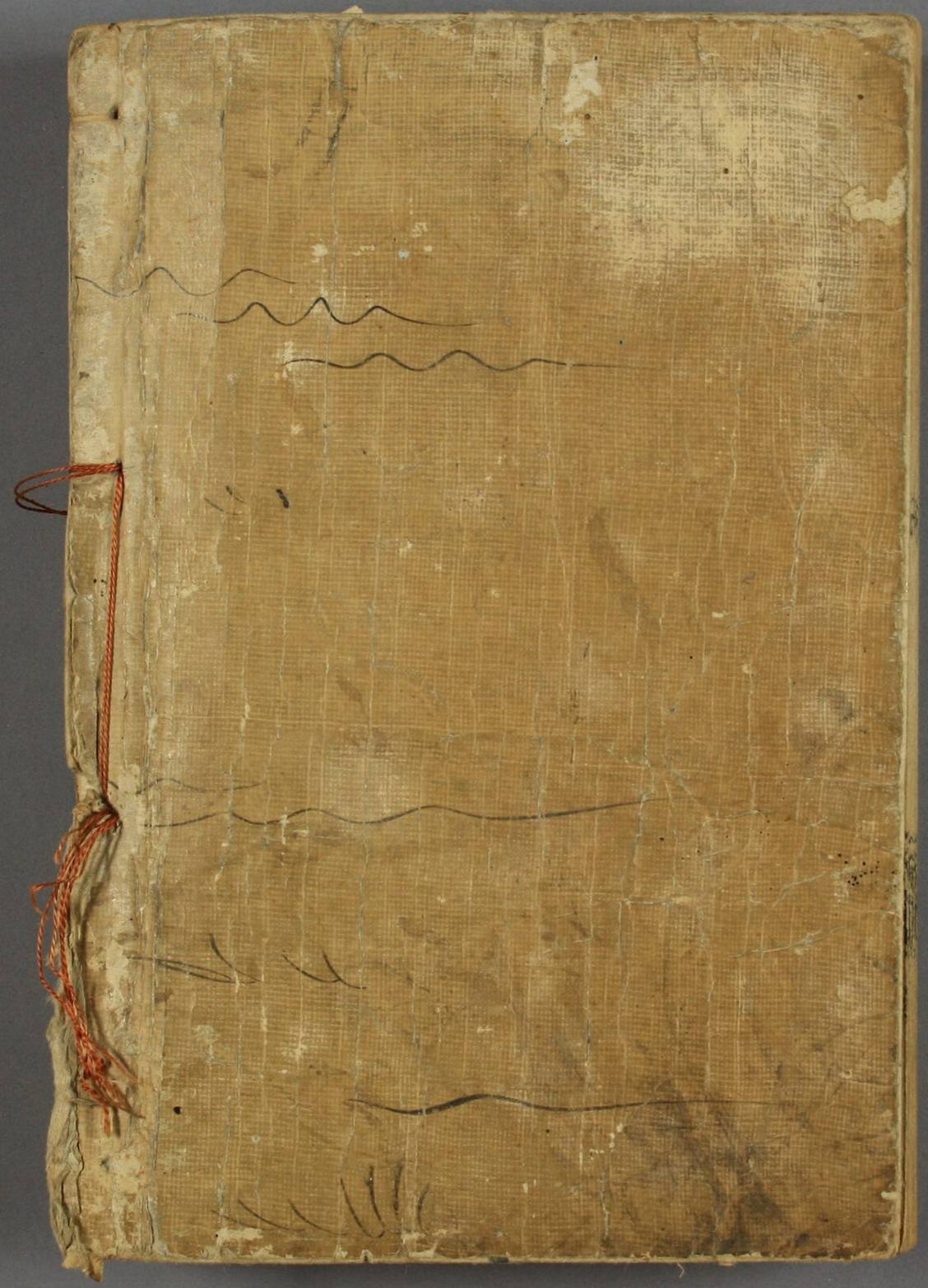
寛弘二年十月二日敦道親王薨年廿七。今年七年ゝ年紀相違如何

よこのはしらあるうちにあるさぶらひ
ばかりなる中君をべ中ごろのわざぶく
れせうそこきこえんなどぶしーのはゆい
ぶんのくくりやはまんいとどさぶ
だいなおぶもうけさめまどぶやまそはは
どのはみるはひあらばやうやうあやごろ
くるーうぞみえんなどぶおぶまるはせの
中をぬるぶくられゆあふおとあさはを
るぶ。あさはきこと八浦えの切りひもう
まぶわるはにぶいうあらまづらえせは
てぶうぶはふしてそぶもくあはまよみど

寛弘七年七十七甲午敦康親王為え服竹月殿御叙三品同八年六三位二品加千戸

まるぶ。うつの一のうくはもんぶくせさせは
ておさぶきあ。ふとはぶせどぶそれハあえ
のつえぶさて物りしまはあぶくさみてもこの
山一条
敦康
ぶ物おりはもこぶはぶはあさはあはぶ今
よこの乃えもこぶはぶそこのやうぞきこえる。
敦康四宮子
はれさえみくくこころあくおばーまはりはつ世
てもうへハあはれなの人ぶまあはくこしあふ
おりひきこえさせはてこころぶはあはあ
ぶはれる殿口ぶさうはれぶうくはのひーとのえで
うちはあはまもきこえさせはるはこころぶ
しのあるあはえおとくぶりんみぞあして

まろうせ給ふをあぢきなくおぼしめしかうぐるまぐるまにもるるまばゆくかくれかくしたるこころもとなくてあるよりけてもゆくへもしらぬこころ地きはまりなくせあるあわをぢなくこのこぞゆくへもしらぬ物ぶしめしまゐる中ぐらいはをしこさをみるにまいらせ給てゆくゑもしらぬ人おもひ海さんおわくぼをいうでうこのこやのはてをさもあらせてまいらぐやさのこぞぐらいぶ海おぼしめしまゐるこのこのこころはもちわてはうでくとおわかだ

やとぐ物ぶしのこの給ひはまばゆくものをうこころばそこう物ぶしくわぶされどうりくくさ海とぐらあたまへ海はあらさ乃人かをしまゐ

よよ